

令和元年度 教育委員会
自己点検・評価報告書

令和2年11月

香南市教育委員会

目 次

点検及び評価の概要	1
自己点検及び評価の構成	2
1. 教育委員会の活動	3
(1) 教育委員会の会議	3
(2) 教育委員会と事務局との連携	3
(3) 教育委員の自己研鑽	3
(4) 支援・条件整備	4
(5) 広報・情報公開	5
2. 教育委員会が管理・執行する事務	8
(1) 香南市教育行政の基本方針を定めること	8
(2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び変更に関する事	8
(3) 教科用図書採択及び教材使用に関する事	8
(4) 教育委員及び事務局職員の任免その他の人事に関する事	8
(5) 香南市立学校教職員の異動方針・異動に関する事	8
(6) 教育委員会の附属機関等の委員の委嘱に関する事	8
(7) 教育予算その他、議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること	9
(8) 児童生徒の就学すべき学校の校区を設定し、又はこれを変更すること	9
(9) 教育委員会条例・規則等の制定又は改廃に関する事	9
(10) 議会の議決を経るべき議案の原案決定に関する事	10
3. 管理・執行を教育長に委任する事務	11
(1) 生きる力を育む就学前・学校教育の推進	11
1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進	11
2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）	12
3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	16
4) きめ細かな教育の推進	22
5) 安全な教育環境での教育の推進	24
(2) 生き生きと学ぶ生涯学習の推進	26
1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり	26
2) 文化の継承と振興	30
3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興	31
4. 成果指標の点検・評価結果一覧表	33
5. 成果指標の点検・評価結果	37
6. 学識経験者からの意見	71

点検及び評価の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を実施することが義務づけられました。

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び教育委員会事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務の効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任があります。

このため、教育委員会の運営及び事務局の事務執行の状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ点検評価を行うこととし、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないとされました。

本報告書は、平成31年度香南市教育行政方針と対比し、方針に対しての達成状況を明確にすることで、具体的に達成状況が判断できるようにいたしました。

また、点検・評価は、客観性を確保するため学識経験者の意見・助言を受け、教育委員会で審議し、「令和元年度教育委員会自己点検報告書」としてまとめ公表することとします。

自己点検及び評価の構成

1) 項目

自己点検・評価は、「1. 教育委員会の活動」、「2. 教育委員会が管理・執行する事務」、「3. 管理執行を教育長に委任する事務」の3つの大項目で構成し、必要に応じて細分化し、項目毎に点検・評価を行いました。

2) 目標、重点取組事項

平成31年度香南市教育行政方針を基に「目標」及び「重点取組事項」を記載しています。

3) 取組の概要

各項目の目標達成に向けて、令和元年度に実施した主な取組を記載しています。

4) 成果、課題

令和元年度に実施した主な取組の成果と今後の課題や取組の方向性を記載しています。

5) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「香南市教育振興基本計画後期計画」における成果指標について、令和元年度の施策の進捗状況や今後の課題等を項目ごとに評価し、4段階評価を行いました。評価の判断基準は次のとおりです。

評 価	判 断 基 準
A	目標・計画どおりに取組を実施し、充分成果がでている。
B	目標・計画どおりに取組を実施し、ある程度成果がでている。
C	目標・計画どおりに取組を実施したが、あまり成果がでていない。
D	目標・計画どおりに取組を実施できなかった。

5) 学識経験者からの意見

本市の教育について、学識経験を有する方からご意見、ご助言をいただきました。

氏 名	役 職
中村 直人	高知工科大学教授

開かれた教育行政をめざして

1. 教育委員会の活動

[目標]

1. 開かれた教育行政の充実に努める。
2. 教育委員会、事務局、学校その他の教育機関との連携を密にし、情報意見交換を積極的に行い、円滑な教育行政の推進に努める。
3. 教育委員としての自覚を持ち、研修に努め、重要かつ基本的な事務処理を適切に行う。

(1) 教育委員会の会議

①開催状況

会議名	回数	議案件数	報告等件数
定例会	12回	104件	27件
臨時会	7回	19件	9件
計	19回	123件	36件

②運営上の工夫

議案・資料を会議1週間前までに受取り、内容を事前に確認し、積極的な意見交換が行えるよう努めるとともに、余裕のある会議時間を設定し十分な審議が出来るように努めた。

(2) 教育委員会と事務局との連携

適宜、協議や意見交換を行いながら、一層の連携が図れるよう努めた。

(3) 教育委員の自己研鑽

研修会への参加や時報「市町村教委」を定期購読し、自己研鑽に努めた。

開催日	内 容	場 所
R元.10.9	市町村教育委員会連合会研修会 『高知県教育委員会からの行政説明』 『不登校児童生徒の理解と支援』	高知会館

R2.1.10	高知県新任市町村教育委員・教育長合同研修会 『高知県教育委員会の教育施策について』 『社会総がかりでの人づくり』	高知会館
R2.2.6	高知県市町村教育委員会連合会定期総会・研修会 『今の時代にあったPTA活動』 ～地域との連携・協働にかかわって～	高知会館

(4) 支援・条件整備

①学校訪問・支援

教育委員会による計画訪問を、市内すべての公立保育所、幼稚園、小学校、中学校及び私立認定こども園で実施し、学校等の経営や教育・保育内容に対する助言・指導を行うとともに、課題解決に対する支援を行った。

訪問日	保育所名
R元. 7. 9	吉川みどり保育所
R元. 9. 27	香我美おれんじ保育所
R元. 10. 16	野市東保育所
R元. 10. 17	夜須保育所
R元. 10. 18	野市保育所
R元. 10. 24	赤岡保育所
R元. 10. 30	佐古保育所

訪問日	幼稚園名
R元. 7. 12	夜須幼稚園
R元. 7. 16	野市幼稚園
R元. 7. 17	香我美幼稚園
R元. 7. 30	のいち幼稚学園
R元. 10. 4	野市東幼稚園

訪問日	小学校名
R元. 5. 24	香我美小学校
R元. 5. 30	吉川小学校
R元. 6. 11	佐古小学校
R元. 7. 4	赤岡小学校

訪問日	小学校名
R元. 7. 5	野市東小学校
R元. 7. 8	野市小学校
R元. 10. 23	夜須小学校

訪問日	中学校名
R元. 5. 16	野市中学校
R元. 6. 12	夜須中学校
R元. 10. 2	香我美中学校
R元. 10. 8	赤岡中学校

②所管施設訪問・支援等

香南市立保育所、幼稚園、小学校、中学校の入学・入園式、卒業・卒園式、運動会等での告辞・祝辞及び行事参加等を実施した。

(5) 広報・情報公開

広報「こうなん」による情報発信を行った。

掲載月	内 容
4月号	* 卒業式 * 就学援助費のお知らせ * 香南市美術展覧会 * としょかんナビ
5月号	* 入学式 * ありがとう、岸本小学校 * 新教育長就任あいさつ * 香南市総合子育て支援センターの愛称「にこなん」に決定 * ファミリーサポートセンター会員募集のお知らせ * としょかんナビ * 平成30年度香南市スポーツ賞
6月号	* 香南市総合子育て支援センター「にこなん」オープン * 「香南市こどもよさこい連合会」踊り子募集 * 新教育委員任命のお知らせ * としょかんナビ * 佐古保育所へ鯉のぼり寄贈 * 野市図書館で読書のイベント「庭読」
7月号	* 夜須小学校グランドピアノお別れ会 * 野市中学校ドリームフェスティバル開催 * 夏ナビ2019 * 東京2020オリンピック聖火ランナー募集 * 病後児保育事業のお知らせ * 教育委員会の取り組み * としょかんナビ
8月号	* 香南市の戦争遺産 * 学校閉庁日のお知らせ * 夏休み子ども文化財教室 * 安岡家住宅のボランティアガイド募集 * 野市図書館のイベント情報 * としょかんナビ

9月号	<ul style="list-style-type: none"> * 香南市総合子育て支援センター「にこなん」 * 香南市こどもよさこい連合会 * 香南市八重瀬町児童生徒交歓会 * 香南市こども議会 * 夜須公民館の催し物案内 * 総合子育て支援センター「にこなん」で栄養・育児相談 * 公民館等使用料の見直し * としょかんナビ * 幼児教育・保育の無償化がスタート
10月号	<ul style="list-style-type: none"> * 香南市指定文化財に新たに2件追加 * 特定教育・保育施設(幼稚園・保育所等)への入園・入所申し込みのお知らせ * にこにこセミナー ～上手にほめて楽しい子育て講座～ * 催し・イベント (のいち図書館まつり、香南市成人式) * としょかんナビ
11月号	<ul style="list-style-type: none"> * 第14回香南市美術展覧会のお知らせ * 夜須公民館の催し物案内 * 催し・イベント (香南市こどもよさこい連合会写真展) * としょかんナビ
12月号	<ul style="list-style-type: none"> * 第4回のいち図書館まつり * まちの運動会 * 香南いきいきセミナー * 児童クラブ申し込みのご案内 * 催し・イベント (香美・香南地区芸能大会、もりたまつり) * としょかんナビ
1月号	<ul style="list-style-type: none"> * 国重要文化財「安岡家住宅」保存修理報告会 * 岡本弥太祭 墓碑建立60周年 * 入学通知書のお知らせ * 就学援助のお知らせ * 第13回香南市長杯オープンゴルフ大会のお知らせ * にこなんが環境大臣賞を受賞 * 催し・イベント (香南市美術展覧会、KONANの駅伝) * としょかんナビ

2月号	<ul style="list-style-type: none"> * 香南市成人式 * KONANの駅伝 * まちの話題（百手祭、百人一首大会） * 第10回香南市長杯ミックスダブルステニス大会のお知らせ * 香南市中央公民館催し案内 * 「山下遺跡」の報告書を刊行 * 催し・イベント（安岡章太郎生誕100周年記念展、バリアフリー図書体験） * としょかんナビ
3月号	<ul style="list-style-type: none"> * KONANの駅伝 * 多子世帯保育料等軽減制度のお知らせ * としょかんナビ * 第19回岡本彌太文学賞表彰

2. 教育委員会が管理・執行する事務

[目標]

議案を研究・精査し、適切な処理に努める。

(1) 香南市教育行政の基本方針を定めること

香南市教育振興基本計画後期計画に基づき「平成31年度教育行政方針」を定めた。
教育行政方針について、平成31年4月10日開催の教職員総会にて全教職員に説明し、周知徹底を図った。

(2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び変更に関すること

令和元年度は、当該案件はなかった。

(3) 教科用図書の採択及び教材使用に関すること

令和2年度に使用する公立小学校及び中学校教科用図書を採択した。

(4) 教育委員及び事務局職員の任免その他の人事に関すること

教育委員会の意向を反映した人事配置がなされた。

* 香南市教育委員会の所管に属する機関の嘱託員及び臨時職員の任用について

(平成31年第8回教育委員会定例会)

* 教育長の営利企業等従事許可について

(平成31年第8回教育委員会定例会)

* 生涯学習課職員の懲戒処分について

(令和元年第7回教育委員会定例会)

* 香南市立保育所・幼稚園職員人事異動方針について

(令和2年第6回教育委員会定例会)

* 令和2年4月1日付け香南市教育委員会事務局職員の人事異動について

(令和2年第6回教育委員会定例会)

* 令和2年4月1日付け香南市立保育所・幼稚園職員の人事異動について

(令和2年第6回教育委員会定例会)

(5) 香南市立学校教職員の異動方針・異動に関すること

高知県教育委員会及び香南市教育委員会の異動方針に基づき配置がなされた。

* 教職員の人事異動の内申について

(令和2年第4回教育委員会定例会)

(6) 教育委員会の附属機関等の委員の委嘱に関すること

担当課からの推薦等に基づき、教育委員会で審議し配置がなされた。

* 地域学校協働本部事業における地域学校協働活動推進員の委嘱について

(平成31年第8回教育委員会定例会)

* 香南市社会科副読本等編集委員会委員の委嘱について

(平成31年第8回教育委員会定例会)

* 香南市教育振興基本計画推進協議会委員の委嘱・任命について

(令和元年第1回教育委員会定例会)

- * 香南市学校等の規模適正化等検討委員会委員の委嘱・任命について
(令和元年第1回教育委員会定例会)
- * 香南市保幼小中食育推進検討委員会委員の委嘱・任命について
(令和元年第1回教育委員会定例会)
- * 香南市補導センター運営委員会委員の委嘱・任命について
(令和元年第1回教育委員会定例会)
- * 香南市教育研究所運営委員会委員の委嘱・任命について
(令和元年第1回教育委員会定例会)
- * 香南市立保育所における保育所評議員の委嘱・任命について
(令和元年第1回教育委員会定例会)
- * 香南市立幼稚園における学校評議員の委嘱・任命について
(令和元年第1回教育委員会定例会)
- * 香南市立小中学校における学校評議員の委嘱・任命について
(令和元年第1回教育委員会定例会)
- * 香南市補導員の委嘱について (令和元年第1回教育委員会定例会)
- * 香南市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱・任命について
(令和元年第2回教育委員会定例会)
- * 地域学校協働本部事業における地域学校協働活動推進員の委嘱について
(令和元年第2回教育委員会定例会)
- * 香南市みどり野東公民館長委嘱について (令和元年第2回教育委員会定例会)
- * 香南市徳王子公民館長委嘱について (令和元年第2回教育委員会定例会)
- * 香南市立野市小学校学校運営協議会委員の委嘱について
(令和元年第3回教育委員会定例会)
- * 香南市立赤岡中学校学校運営協議会委員の委嘱について
(令和元年第3回教育委員会定例会)
- * 香南市子ども・子育て会議委員の委嘱について
(令和元年第10回教育委員会定例会)
- * 香南市学校等の規模適正化等検討委員会委員の委嘱について
(令和元年第10回教育委員会定例会)
- * 香南市マリンスポーツ振興協議会委員の委嘱について
(令和元年第11回教育委員会定例会)

(7) 教育予算その他、議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること

令和元年度は、事務局提案以外で市長への意見具申はなかった。

(8) 児童生徒の就学すべき学校の校区を設定し、又はこれを変更すること

令和元年度は、当該案件はなかった。

(9) 教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること

①規則

香南市教育委員会行政組織及び事務局処務規則の一部を改正する規則について
外22件

②告示・訓令

香南市立岸本小学校・香我美小学校統合準備会設置要綱を廃止する告示について
外 4 3 件

(10) 議会の議決を経るべき議案の原案決定に関すること

非常勤の特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
外 1 2 件

3. 管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 生きる力を育む就学前・学校教育の推進

1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進

重点取組事項

①保幼小中連携（一貫）教育の推進

①保幼小中（一貫）教育の推進

【取組の概要】

- ◇「香南市保幼小中連携カリキュラム」及び「香南市保幼小中連携（一貫）プログラム」に基づく保幼小中連携（一貫）教育を推進し、子どもたちが保育所・幼稚園から小学校へ、小学校から中学校への接続を円滑にするとともに、コミュニケーション能力、規範意識、自尊感情を高めるよう努めた。
- ◇香南市保幼小中連携子育て・教育推進事業（9の事業）のねらいに沿った取組を計画的に進めた。
- ◇香南市保幼小中連携子育て・教育推進事業の進行管理・指導、成果・課題等を協議し、子育て・親育ちの推進を図った。
- ◇子どもたちの基本的な生活習慣や自己肯定感等、人としての素養を育成するとともに、併せて親として望ましい子育てを支援した。
- ◇中学校区連携推進研究事業として、各中学校区の教育課題解決に向けて、外部専門講師を招聘するなどして、保幼小中が連携しながら実践的研究を推進した。
- ◇小学校5、6年生への専科制や小中学校間の授業相互乗り入れを実施し、小中学校を通じた連続性のある教育を行い、学力向上や生徒指導上の諸課題の解消に努めた。
- ◇香南市教育研究所を中心に、学校と連携した効果的な授業研究や校内研修を推進するとともに、教職員を対象に保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育に関するアンケート調査を実施した。

【成果】

- ◇中学校区連携部会では、4つの具体的な取組を各中学校区で実施できた。また、各中学校区の課題に応じた合同研修、合同授業研を行うことが増え、各中学校区の特色ある連携の取組が進展し、資質向上が図られた。
- ◇令和元年度の道徳意識調査において、小学校では、自尊感情に関する項目に対する肯定的評価が年間を通じて82%を超え、中学校では年度末になるにしたがって肯定的評価が増加し、年度末には71.8%となった。

【課題・方針】

- ◇市内全小学校6年生を対象としたアンケート結果より、「中学校に入学することで楽しみにしていることがありますか」の質問項目において「ある」と答えた児童が昨年度と比較して微減した。また、「中学校入学にあたり、心配なことはありますか」との質問項目において「ない」と答えた児童についても若干減少した。心配のある内容として、「友達」が昨年度と比較して、若干増加している。今後も引き続き、児童生徒間の交流を含め、中

学校との連携の充実を図る。

◇香南市保幼小中連携カリキュラムに沿った0歳から15歳までの系統的な育ちや学びに取り組み、香南市が目指す子どもの育成を目指す。

◇中学校区ごとに共通した取組を継続的に行い、連携の質的向上を図る。

2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）

重点取組事項

①厳しい環境にある子どもたちへの支援

②学校の組織マネジメント力の強化

③不登校の改善

④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築

⑤家庭の教育力の向上

⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実

①厳しい環境にある子どもたちへの支援

【取組の概要】

◇チャレンジ塾等の学習機会を充実し、子どもの育ちを促し、学力向上につながる取組の充実を図った。

◇経済的に厳しい児童生徒の給食費や学用品費などの費用を援助した。

◇保護者を対象とした子育て講演会を実施し、家庭教育力の向上を図った。

◇保育所・幼稚園で実施される保護者会に、市教育委員会が出向き、「香南市の教育について」の説明を行うなど共通理解を得ながら、家庭と連携した子育ての充実を図った。

【成果】

◇チャレンジ塾は2箇所の開設であったが、学習機会を設けることにより、学習内容だけでなく学習習慣定着へのきっかけづくりや進路への意欲づけにつなげることができた。

◇スクールソーシャルワーカーの活用などにより児童生徒と学校、家庭間の情報共有や連携をすすめることができ、児童生徒への支援につなげることができた。

◇就学援助制度などについて学校との連携や協力により、制度の周知徹底や該当もれを防ぐための取組が推進できた。

◇保育所・幼稚園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者を対象とした講演会を実施し、家庭教育力の向上が図れた。

◇保育所・幼稚園の保護者会において、「香南市の教育について」の説明を行い、保幼小・中・家庭・地域連携教育の理解を深めることができた。

【課題・方針】

◇就学援助制度について機会あるごと保護者に周知し、申告もれが無いよう留意していく。

◇チャレンジ塾は、今後も継続して開設していく。今後、受講の希望者が増える状況となれば教室数を増やしていく。

②学校の組織マネジメント力の強化

【取組の概要】

- ◇学校経営計画をもとに、取組状況や成果を点検・検証し外部の専門家や地域の人材の力を活用しながら取組を推進した。
- ◇所属長会・副所属長会などにおいて、必要に応じマネジメントに関する研修を実施し、資質の向上に努めた。
- ◇個々の教員の授業力向上を図るとともに、全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導につなげた。
- ◇研究主任や情報教育担当者など、各教職員が個々の役割を十分に理解し、力を発揮する学校づくり推進のため、各担当者会を実施した。
- ◇「チーム学校」を構築するためのチェックシートを活用し、チーム力に関する取組を評価し、今後へつなげるPDCAサイクルの取組の充実を図った。

【成果】

- ◇組織マネジメントの考え方や研修内容が、各学校で定着している。
- ◇学校経営計画に沿って運営が行われ、PDCAサイクルを活用した計画・点検・検証・改善の流れが教職員の間で定着してきた。
- ◇校務分掌に沿った実践が行われ、担当教員が与えられた役割を果たすシステムが定着している。
- ◇学校が抱える課題に対して、教職員個々の力量に頼るのではなくチーム学校として対応する姿が見られ、さまざまな場面で組織的に課題解決へとつながっている。

【課題・方針】

- ◇教員数の多少も伴って、学校によっては、運営面で教員の個々の力量に頼る部分が残されている。チーム学校の考え方や取組を浸透させ、PDCAサイクルを回しながら今後も改善に努めることで、組織マネジメント力の強化を目指していく。
- ◇各種学力調査を基に、学校全体が組織として取り組むことで、安定した成果につなげていく。

③不登校の改善

【取組の概要】

- ◇スクールソーシャルワーカーを配置し、保育所・幼稚園・学校と教育支援センター「森田村塾」、医療や福祉等の関係機関と連携を図り、子どもや保護者に対する支援の充実を図った。
- ◇さまざまな要因で悩みを抱える子どもや保護者、教職員への教育相談（こども相談室・ほのぼの相談）や校内支援会の実施、スクールカウンセラー等の配置など、支援体制の充実を図った。
- ◇教育支援センター「森田村塾」において、不登校等の子どもの居場所づくりを充実するとともに、学校との連携を密にし、学校生活への復帰を支援した。
- ◇子どもたちが、安心して学校生活をおくることができるように、各学校が、児童生徒理解を深め、温かい学級づくりに取り組めるようQ-Uアンケートやいじめ調査等を実施し、その活用を促進した。
- ◇森田村塾にアウトリーチ型スクールカウンセラーを配置し、各家庭等への訪問支援を行

い、きめ細やかな対応を行った。

【成果】

- ◇スクールソーシャルワーカーの連絡会を定期的を開催し、事例対応などへの検討を行ったり、スキルアップにつなげるため相互アドバイスなどを行ったりすることにより、児童生徒や家庭への支援の充実につながった。
- ◇教育相談などの支援制度をフル活用でき、学校が課題としていることなどに対して支援ができた。

【課題・方針】

- ◇魅力ある学校づくり調査研究事業の基本的な考え方を、全ての学校が取入れ継承していくことで不登校の未然防止に努め、その結果不登校児童生徒数の減少につなげていく。
- ◇教育支援センター（森田村塾）のより有効的な運営について協議し、スクールソーシャルワーカーとも連携して不登校児童生徒への支援を充実させる。

④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築

【取組の概要】

- ◇積極的な情報発信や学校評価の実施により、地域に根ざした特色ある学校づくりに努めた。
- ◇すべての小中学校で地域学校協働本部事業に取り組んだ。
(本部9箇所：夜須中学校区、赤岡小学校、吉川小学校、野市東小学校・野市小学校・佐古小学校・赤岡中学校・香我美中学校区・野市中学校)
- ◇コミュニティ・スクール実施（赤岡小）及びコミュニティ・スクール導入等促進事業の実施（赤岡中・野市小）
- ◇市内全小中学校で土曜日等授業を3回実施した。
- ◇こうなんファミリーサポートセンターを開設し、安心して子育てができるような住民同士の相互援助活動の取組を進めた。
- ◇子育て情報を得る手段としてインターネットの活用が高まっており、市の子育て情報サイト「香南キッズ」の周知を進めた。

【成果】

- ◇地域学校協働本部事業により、香南市全域で地域と連携した教育を推進することができた。
- ◇子どもたちの「生きる力」の育成をめざし家庭・地域と連携した土曜日等授業を推進した。
- ◇仕事と育児の両立を支援し、安心して子育てができる環境づくりを充実させるため、こうなんファミリーサポートセンター事業を実施して、子育てを住民同士が協力・支援する取組を進めることができた。
- ◇妊娠が分かった時から就学期までの、助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先、子育て関連情報をインターネット上のサイトで見やすくまとめて掲載した。

【課題・方針】

- ◇高知県版地域学校協働本部に移行するために、運営協議会等での地域と学校の定期的な協議の場の設定や、厳しい環境に置かれている子どもたちを見守ることのできる体制の構築を進める。
- ◇こうなんファミリーサポートセンター事業の実施にあたっては、ボランティアである「まかせて会員」のなり手が不足しているが、社会福祉協議会と協働して、保護者や会員へのアンケート調査の実施や他市の状況を参考に会員増加につながる取組を進める。
- ◇スマートフォンアプリ「LINE」を活用した市のHPと連動した情報発信ツールの普及と合わせてサイトの周知を図っていく。

⑤家庭の教育力の向上

【取組の概要】

- ◇家庭教育学級や子育て講座などを開催し、家庭の教育力向上を図るとともに、子育て支援センターの充実やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどの活動を通して、さまざまな不安や悩みを持つ保護者に対する子育て相談や援助などを行った。
- ◇子どもたちの基本的な生活習慣を身に付けさせ、自尊感情等を育成するため、親として望ましい子育てについて啓発を行うとともに、絵本の読み聞かせ等を通じた親子のふれあいを支援した。

【成果】

- ◇スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの協力を得ながら、保護者に対する支援が充実してきている。

【課題・方針】

- ◇家庭の教育力の向上を目指し、子育て相談や講演会の開催など保護者支援を充実させていく。

⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実

【取組の概要】

- ◇地域学校協働本部事業等により支援員を配置し、小中学校で放課後学習に取り組んだ。
- ◇子どもたちの健やかな育ちと豊かな学びを支援するため、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の支援員等の研修機会を確保し、資質向上を図った。
 - *放課後児童支援員認定資格研修（4名）
 - *放課後児童支援員研修（11回、延べ215名）

【成果】

- ◇年間を通して学習支援者を配置し、継続的に学習をサポートすることで、放課後の学習習慣が定着してきた。
- ◇研修に参加することで、職務を遂行するうえで必要な知識及び技能の習得と、その実践の基本的な考え方や心得を学ぶことができた。

【課題・方針】

- ◇子どもの居場所を確保する上で、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の果たす役割は大きい。子どもの生活や学習支援の充実を図る上でも、支援員への研修の機会を確保し支援の質的向上を目指していく。
- ◇放課後児童クラブ支援員の研修機会の確保、参加により、さらなる資質向上及びスキルアップを図る。
- ◇児童クラブの安定した運営のため、放課後児童支援員の人員確保を進めていく。
- ◇野市小学校及び香我美小学校の児童クラブで発生している待機児童の解消を図るために、令和2年度に新たな施設整備を行う。

3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

重点取組事項

- ①就学前教育の充実
- ②確かな学力の育成
- ③豊かな心の育成
- ④キャリア教育の推進
- ⑤人権教育の推進
- ⑥健やかな体の育成と健康の増進
- ⑦特別支援教育の推進

①就学前教育の充実

【取組の概要】

- ◇日常的な保育所・幼稚園経営に係る諸問題について研修を深め、その望ましい解決策等を探り、管理職としての経営能力の向上を図った。
 - *所属長及び副所属長合同研修（1回、11名）、副所属長研修（2回、22名）
- ◇保育及び幼稚園教育の中核を担う保育者に対して研修を実施し、保育所及び幼稚園の質的向上及び次期管理職の育成を図った。
 - *中堅保育士研修（1回、12名）、園内研修会（63回、694人）、研究主任会（3回、39人）、特別支援保育・教育研修会（2回、140人）
- ◇保育所・幼稚園に保護者支援相談員を配置し、さまざまな悩みや課題を持つ保護者に対する子育て相談・指導などを行い、子育て支援に努めた。
- ◇就学前の子どもがいる保護者に対して、総合子育て支援センター等における育児学級等の開催や、市内全域を対象とした子育て・親育ち講演会を開催し、親として望ましい子育てを支援した。
 - *総合子育て支援センター等での育児学級等講習会（36回、483家庭）
 - *香南市子育て親育ち講演会（香南市総合子育て支援センター「にこなん」オープン記念講演会として実施、保護者57名参加、託児利用15名）
- ◇県指定のブロック別研修会を夜須幼稚園で5回、フォローアップ研修を東幼稚園で2回行い、年間を通じた研修により職員の資質向上に努めた。

【成果】

- ◇年間を通じた研修会実施により前回の学びに次の学びを積み上げるなかで、園内で成果と

課題を共有し組織で保育を作る意識の高まりと保育者の質の向上となった。
◇県指定のブロック別研修及び次年度のフォローアップ研修を行い、香南ブロックにおける主体的な実践研修のためのネットワーク化の推進とミドルリーダーの育成に努めた。また、園の組織力アップを図り保育者の資質向上と保育の充実につながった。

【課題・方針】

◇今後も年間を通して計画的に研修を実施し、保育者の資質向上と保育の充実を図る。

②確かな学力の育成

【取組の概要】

- ◇子どもたちが学習の意義や大切さに気づき、自ら進んで取り組み、考え行動できる学習活動を推進するため「できる・わかる・楽しい授業」の取組を全校で行った。
- ◇到達度把握調査（標準学力調査）を小学校2年生から中学校3年生まで実施し、結果分析をするとともに、分析に基づく授業改善に努めるよう通知した。
- ◇各小・中学校の実態に応じて非常勤講師、生活学習支援員を配置し、複数の教員による児童生徒一人ひとりに応じた少人数指導の授業、専科の教員による専門性の高い授業を行った。（非常勤講師3名、生活学習支援員10名）
- ◇国立教育政策研究所の指定事業として、魅力ある学校づくり調査研究事業【市内全域】、高知県教育委員会の指定事業として、英語教育拠点校事業【推進校：佐古小学校】、道徳教育推進拠点校事業【拠点校：夜須中学校】、実践的防災教育推進事業【拠点校：夜須小学校、夜須中学校】、中学校組織力向上のための実践研究事業【推進校：香我美中学校・野市中学校】、未来にかがやく子ども育成型学校連携事業【赤岡小学校、吉川小学校、赤岡中学校】、校内支援会活性化事業【夜須小学校】、学校図書館を活用して「読み」を鍛える拠点校事業【赤岡小学校】、「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクトにおける算数科・数学科授業づくり講座【野市東小学校】、人権が尊重された学校づくり支援事業【夜須中】に取り組んだ。
- ◇年間3回実施した外国語教育担当者会を活用し、英語教育拠点校事業を推進している佐古小学校の取組を広く紹介するなどして、新学習指導要領実施の準備を進めるとともに、小小連携・小中連携による小・中学校の英語教育の充実を図った。
- ◇外国語指導助手（ALT）を活用することにより、それぞれの発達段階に応じた外国語指導の充実と異文化理解を促進した。
- ◇中学校3年生を対象にチャレンジ塾を実施した。
- ◇教育課題のある学校に対して生活学習支援員を配置し、学力問題や生徒指導上の諸問題の解消に努めた。

【成果】

- ◇令和元年度全国学力・学習状況調査では、小学校は国語、算数ともに全国平均正答率を上回ったが、中学校においては、国語、数学、英語の全ての教科において全国平均正答率を下回り、特に英語は厳しい状況が見られた。中学校は、全国平均との差は年々縮まってはきている。
- ◇ICT機器を活用した授業については、先生方が授業の中でICT機器を活用できるようになり、授業改善に向けた動きが動きはじめた。また、小学校ではプログラミング教育に向け、ICT支援員の訪問による校内研修を行うことで教職員への共通理解が図れた。

◇中学校区連携推進研究事業や各種学力調査の結果分析を活かして、15歳の出口を見据えた学力の定着に向けて、どのような力を付けるのか共通認識することができた。

【課題・方針】

- ◇全国学力・学習状況調査の結果において、全国平均には十分至っていない状況を踏まえ、各学校内だけではなく、中学校区も連携して、一層の学力向上に努めていく。
- ◇基礎基本の学力の定着はもちろんのこと、新学習指導要領における新しい学力観に沿って、確かな学力が子ども達に身に付くよう取り組んでいく。
- ◇外国語教育やプログラミング教育など新たな教育が学校現場に迅速に定着するよう、支援を行ったり研修の機会を設けたりしていく。
- ◇国や県の指定事業を積極的に活用し、香南市の教育の向上を目指していく。

③豊かな心の育成

【取組の概要】

- ◇各校の道徳教育推進教師による道徳教育担当者会を年間3回開催し新学習指導要領で教科化された「特別の教科 道徳」趣旨理解と評価方法などについて研修を行った。
- ◇道徳意識調査及びチェックシートを実施し、自尊感情や生活習慣、人間関係や規範意識、それぞれの高まり具合を継続的に調べ取り組みの指標とした。
- ◇学校図書館支援員を小中学校に配置し、読み聞かせ、読書環境の整備、貸し出し業務などを行い、子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力と創造力を豊かなものにする読書活動を推進した。
- ◇社会科副読本「香南のくらし」を活用して地域のくらしや歴史、文化について知識や経験を深める教育を推進した。

【成果】

- ◇継続的に市ぐるみで授業改善の取り組みを進めたことにより、道徳の時間への意識が高まり、教師自身の苦手意識が軽減された。また、継続して講師招聘や校種間の連携をとることで、発達段階に応じた発問の設定や資料解釈ができ、めざす道徳の授業について研修を深めることができた。
- ◇社会科副読本「香南のくらし」の第4版改訂に向け、小学校教諭が編集委員となり、作業や担当者会を通して単元や授業の構想について深めることができた。子どもたちにとって興味関心が高まり、思考力が深めることができる副読本になるよう協議を深めることができた。

【課題・方針】

- ◇わがまちの道徳教育推進事業の流れを継続し、各学校における道徳の授業改善に努める。
- ◇社会科副読本「香南のくらし」の改訂版作成にあたっては、中心となって作業を進める人員を配置し、子どもたちにとって興味関心が高まり、思考力が深めることができる副読本の作成を目指していく。

④キャリア教育の推進

【取組の概要】

- ◇子どもの発達段階に応じて、家庭教育、幼児教育、学校教育、生涯学習（社会教育）が連

携して、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成するとともに、将来の生き方を考え、自己実現が図れるように支援した。

- ◇キャリアパスポートを作成し、小中学校9年間かけて、各学年で作成したキャリアシートがつながる取組を支援した。
- ◇地域のさまざまな人との交流をとおして体験的な職業理解、職場体験学習などを行うことで、仕事や社会人としての生き方について考え、将来に向けての自分らしい生き方に向かう態度を育てた。
- ◇地域の事業所などの協力を得て、中学生を中心として、職場体験学習を推進し、職業に関する理解を深めるとともに、地域社会を支える仕事や産業についての理解を深めた。
- ◇子ども会議の開催などにより、香南市のまちづくりなどについて考えることで、市政への参加や理解を深めるとともに、子どもの社会参画への態度や意欲を高める取組を進めた。

【成果】

- ◇多くの学校で地域の人との連携や地域人材の活用をするなかで、児童生徒が地域の産業理解を深めたり、職業に関する知識を獲得し意識を高めたりすることを通して、自立意識の高揚につながられた。
- ◇子ども会議を開催する取組の中で、社会の仕組みや行政の働きなどを学習する機会となり、参政意識や社会参画意識を高めることができた。

【課題・方針】

- ◇今後も地域住民や地域企業からの支援や協力を得ながら、多様な体験活動や職場体験学習の充実を図っていく。
- ◇子ども達が就職する際に求められるであろう、「基本的な生活習慣の確立」「学力の定着」「社会性の育成」について、あらゆる教育活動において身につけることができるよう取組んでいく。

⑤人権教育の推進

【取組の概要】

- ◇自尊感情を高め、互いを認め合い支え合う共感的な人間関係づくりや、人権に関わる課題の解決をめざした、一人ひとりを大切にす人権教育に取り組んだ。
- ◇各学校において、人権教育年間計画を作成し、人権を基盤とした学校づくりに取り組んだ。
- ◇「高知家」児童会・生徒会地区別交流集会では、香南市内の小中学校の代表者が、自校のいじめ防止の取組を交流し、今後の取組について協議することで、いじめ防止に対する意識の高揚や具体的な取組の推進につなげることができた。

【成果】

- ◇各学校では、講師やテーマを変えながら人権教育年間指導計画に合わせた実践を計画的に実施することができた。

【課題・方針】

- ◇人権意識が高まり定着していくためにも、あらゆる教育活動を通して人権教育に取り組んでいく。
- ◇各学校で、いじめ問題など人権問題について全児童生徒で考える機会を設けていく。

⑥健やかな体の育成と健康の増進

【取組の概要】

- ◇家庭や地域と連携して「早ね 早おき 朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を図るよう取り組んだ。
- ◇発達段階に応じた適切な性教育や保健安全指導を行い、健康づくりにおける自己管理能力の育成を図るよう取り組んだ。
- ◇望ましい食習慣の形成に向けた食指導や、市内全校で調理体験教室等を行い、食に関する意識啓発や調理技能の向上を図るとともに、地元食材を使った料理教室の実施などに取り組んだ。香南市食育推進計画に則り、食についての指導の充実に努めた。
- ◇保護者に献立表や給食だよりの配布及び給食試食会を実施し、望ましい給食への理解を得るよう努めた。
- ◇栄養教諭等による、食物の働きや栄養指導及び正しい食事のマナーの指導など食育の推進に努めた。
- ◇小学校5年生対象の朝食づくり教室、中学校1年生対象の弁当づくり教室を実施した。
- ◇旬の食材等、生産者の心のこもった安心・安全な地場産品を積極的に取り入れ、バランスのとれた献立とリクエスト献立を実施した。
- ◇保幼小中食育推進検討委員会では、各年齢に応じた食の取組が行われていることを情報共有し、成果を他の所属に広めることや共通の課題に対して積極的な討論がなされた。

【成果】

- ◇令和元年度全国体力・運動能力調査では、小学校5年生男女の体力合計点は全国平均を若干下回り（男子：1.8ポイント、女子：2.0ポイント）、中学校2年生は男子が全国平均を3.9ポイント上回り、女子は全国平均を1.4ポイント下回る結果となった。
- ◇市が設定する朝食作り等も定着してきた。また、学校独自で食育に関する取組を実施する所属所が増えた。
- ◇乳幼児期は保護者の影響を受けやすい時期なので、参観日や給食だより等を利用して、保護者への啓発を実施した。

【課題・方針】

- ◇望ましい食習慣の確立や健康な体づくりを目指し、家庭や地域からの支援も受けながら食育を推進していく。
- ◇体育の授業での運動量を増やすなど、授業内容の見直しを行うとともに、業前、業間等の運動機会の確保、年間通じた取組の継続等、児童生徒の運動習慣の確立にも取り組む。
- ◇香南市食育推進会議と一層の連携を図れるよう情報共有していく。
- ◇料理の機会や経験が少ない親が増えているため、そこに対する意識付けが課題であり、今後も、保育・幼稚園等と連携した食育事業、健康対策課によるパパママ教室や乳幼児健診での指導、総合子育て支援センターでの栄養相談を継続し、朝食摂取について更なる啓発を行っていく。

⑦特別支援教育の推進

【取組の概要】

- ◇障害のある子どもたちに適切な指導が行えるよう、教育環境を整備し、特別支援教育支援員の配置や教職員研修を充実するなど支援体制を整えた。（研修会：2回）

- ◇関係機関と連携して適切な就学指導を進め、障害の種別と特性に応じた教育課程の編成を行い、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を進めた。
- ◇効果的な通級指導のあり方を研究し、ADHD（注意欠陥／多動性障害）やLD（学習障害）などの子どもたちの特性に対応した教育を推進した。
- ◇特別支援学校や専門機関との連携を進め、特別支援教育支援員を有効に活用しながら、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすことのできる取組を進めた。
- ◇就学前から特別な支援を必要とする子どもへの適切な指導援助を行うため、専門コーディネーターを配置し、教職員の資質向上に取り組むとともに、効果的に子どもの成長発達を支援することに努めた。
- ◇特別な支援を必要とする子どもに対する早期対応への取り組みとして「いきいき香南っ子相談事業」（就学前～小学校低学年対象）を実施した。

（相談43回、フォローアップ36回）

【成果】

- ◇香南市特別支援教育アドバイザーによる各学校の巡回訪問では、特別支援教育の視点を踏まえた学校経営、学級経営の推進・充実に向け、指導・助言を行うことで、学校の支援体制の構築、充実を図ることができた。
- ◇教職員研修では、事例を基に具体的な話を講師の先生にして頂き、参加者は子どもへの関わり方やユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくりについて学ぶことができ、日々の指導に生かすことができています。
- ◇いきいき香南っこ相談事業では保育者の資質向上が図られ、個別の指導計画など、計画的な特別支援保育・教育の取組となっている。
- ◇研修会では発達の特性や捉え方など、ユニバーサルデザインに基づいた保育者の関わりや環境構成について学び合った。いきいき香南っこ相談事業で園から多く出される質問の中から、手の発達についての研修を行い、実践的な学びとなっている。
- ◇ティーチャーズトレーニングでは受講対象所・園を決めて実施し、子どもの行動理解とその支援について共に学び特別支援保育・教育について同じ方向性を持つことで、園内の体制の強化や教職員の資質向上となっている。

【課題・方針】

- ◇支援が必要な児童生徒への十分な支援が行えるよう、特別支援教育支援員の適切な配置をしていく。
- ◇教室環境を整えることで周囲からの刺激を和らげ、学習に集中できる教室づくりを心掛けていく。
- ◇専門機関との連携を密にすることで、指導方法や支援体制の充実を図る。
- ◇いきいき香南っこ相談事業は順次実施し、特別支援専門職員と連携して各所園の特別支援保育・教育の支援を行っていく。
- ◇市健康対策課との連携による早期対応や、年長組相談への市教委学校教育課指導主事、SSWの参加により就学における引継・連携などを、継続して行い、子どもの理解や支援へつなげていく。

4) きめ細かな教育の推進

重点取組事項

- ①教職員の専門性・指導力の向上
- ②保育所・学校運営の充実
- ③生徒指導の充実
- ④教育相談・支援体制の充実

①教職員の専門性・指導力の向上

【取組の概要】

- ◇保幼小中が連携して、共に取り組むべき課題等について、各主任会・担当者会を計画的に実施し、情報交換や指導・支援の在り方について、協議を通して共通理解を図った。
- ◇各小中学校の学校経営計画、各学力調査分析、校内研修推進計画に基づく取組を指導・支援することで、授業研究を中心にした授業改善に取り組んだ。県指定事業の進捗管理を含め、中学校では、東部教育事務所と連携し授業改善プランを検証することでPDCAサイクルを意識した教育活動に取り組んだ。
- ◇市内保幼研究主任会の実施（3回、39人）

【成果】

- ◇異校種間で、目指す子ども像を共有したうえで、学力向上に向けての具体的な取組について協議し、中学校区で共通した取組について共通理解を図り実践につなげることができた。
- ◇中堅保育士として、自分の立場を自覚して自分の園を捉え直し取り組むことができるようになった。

【課題・方針】

- ◇教職員の専門性や指導力の向上を目指し、研修の機会を充実させていく。
- ◇新学習指導要領が示す学力観に沿って、日々の授業改善に取り組んでいく。

②保育所・学校運営の充実

【取組の概要】

- ◇所属長会・副所属長会等において定期的な協議や研修を実施し、管理職としての経営能力の向上を図った。
- ◇保育所評議員・学校評議員の配置や、学校アンケート等の実施により、保育経営・学校経営に地域・保護者・児童生徒の意見や評価を取り入れ、子どもたちがより良い保育・学校生活を送れるよう、保育・学校運営の改善と発展に努めた。
- また、市の教育方針や評価の視点等を確認し、情報交換や協議を行うための香南市保育所評議員・学校評議員連絡会を開催した。（1回実施）

【成果】

- ◇香南市評議員連絡会を開催し、課題等を共有することができた。

【課題・方針】

- ◇学校経営計画に沿って、知徳体のバランスの取れた学校運営を推進していく。運営に当た

っては、PDCAサイクルを回してチェック機能や改善策を入れながら、効果的な学校運営に心がけていく。

◇保育所・学校評価の結果を重視し、児童生徒・保護者・地域の方からの意見も参考にした学校運営を行う。

③生徒指導の充実

【取組の概要】

◇全小中学校全学年に対し、年2回のQ-Uアンケートを実施し、分析から児童生徒理解を深め、温かい学級・学校づくりに努めた。

◇補導員連絡会で、生徒指導に係る情報交換や問題行動未然防止の取組についての研修等を実施した。

◇高知夢いっぱいプロジェクト推進事業「未来にかがやく子ども育成型学校連携事業」として児童生徒の自己指導能力を育成するため、9年間で児童生徒に身につけさせたい力を明確にして、小中学校が共同で、全ての教育活動に生徒指導の3機能を位置づけた取組を組織的にすすめた。（赤岡中学校区）

【成果】

◇校長会において、高知工科大学と高知大学の講師に来て頂き、Q-Uアンケートの結果に関する分析について講話頂き、自校の児童理解に活用することができた。

【課題・方針】

◇Q-Uアンケートは今後も実施し結果を分析することで、教員が気付きにくい児童生徒の思いや悩みをいち早く把握し、生徒指導の早期対応につなげていく。

◇「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」といった生徒指導の3機能を教育活動の中に取り入れることで、自己指導能力を高め、児童生徒の主体的な活動へとつなげていく。

④教育相談・支援体制の充実

【取組の概要】

◇就学移行期にスマイルサポート支援ファイルを作成・活用し、関係者間の情報及び認識の共有化、保育所、幼稚園から小学校での教育支援の円滑な移行を図った。

◇子どもたちの大切な命を守ることを目的に、いじめや児童虐待に対応する校内体制の整備と見直しを図り、絶えず子どもたちのサインを見逃さない取組と情報の共有化を進め、関係機関との連携をとりながら対応を強化するよう取り組んだ。

◇各中学校区に1名ずつスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもの居場所づくりを進め、全ての長期欠席児童生徒への支援をめざして、様々な態様を持つ不登校の子どもたちや保護者への支援や取組を行い、実態に応じたソーシャルワークができるよう学校との連携体制を構築すべく取り組んだ。

（本年度スクールソーシャルワーカー4名体制）

◇就学前保護者対象の「こども相談室」小中学校保護者対象の「ほのぼの相談」を開設し、課題を抱える子どもと保護者の支援に取り組んだ。

【成果】

- ◇各校で特色のあるスクールカウンセラーの活用ができた。
- ◇スクールソーシャルワーカーを4名体制とし、配置校を主に中学校区別とすることで、きめ細かい支援体制が構築でき関係機関との連携や強化が図られた。
- ◇こども相談室：67件、ほのぼの相談：346件

【課題・方針】

- ◇スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置については、児童生徒・保護者・学校への支援を考え効果的な配置を継続していく。
- ◇専門機関との連携を密にしながら教育相談体制の充実を図っていく。
- ◇子どもたちや保護者の悩み・不安に対応するための教育相談活動を引き続き行い、不登校やいじめの教育課題に対して、関係機関と連携しながら適切な対応に努める。

5) 安全な教育環境での教育の推進

重点取組事項

- ①防災教育等の推進
- ②保育所・幼稚園・学校の環境整備

①防災教育等の推進

【取組の概要】

- ◇各学校では、学校管理運営計画書の見直し時期や防災に関する取組に合わせ、学校防災マニュアル、危機管理マニュアルを見直すとともに、防災教育の推進に取り組んだ。
- ◇安全に対して必要な条件整備を図り、事故や災害が発生した場合に備えての危機管理体制を整えるとともに、日頃からの危機管理マニュアルの周知徹底を図り、事故や災害に強い施設や環境の整備に努めた。
- ◇家庭や地域及び関係機関との連携を密にし、児童生徒や保護者が安心して防犯に関する相談ができる体制を整備し、登下校時における犯罪被害の防止や不審者の校内侵入に対する安全確保の徹底に努めた。
- ◇保護者や地域を巻き込んだ地域住民参加型の防犯体制を整え、子どもたちに対する犯罪の未然防止に努めた。
- ◇防災教育を中心とした高知県実践的防災教育推進事業を受け、モデル校区である夜須小学校、夜須中学校の取組や成果を周知すると共に、市内の小中学校が研究発表会に参加できる体制を整えた。
- ◇防災アドバイザー派遣事業を3小中学校（香我美小学校、夜須小学校、夜須中学校）で実施した。

【成果】

- ◇夜須小学校、夜須中学校をモデル校区として取り組んだ実践的防災教育推進事業を通して、モデル校区の取組や成果を普及し、市内小中学校の防災教育の推進につなげることができた。

◇校区の通学路の状況について、児童が地域の方や関係者と共に調べ交通安全についての意識が高まった。

【課題・方針】

- ◇自分の命は自分で守ることができる児童生徒の育成を目指し、今後も年間3回以上の避難訓練の実施、年間5時間以上の防災学習の実施を徹底する。
- ◇防災教育を通して、子ども達の安全への意識や災害への備えを含めた実践的態度を高めていく。
- ◇災害発生時の避難行動や、発生後の避難生活について、学校だけではなく機会が合えば地域と連携した活動に拡充していく必要がある。

②保育所・幼稚園・学校の環境整備

【取組の概要】

- ◇教育施設等の耐震化を促進するとともに、ゆとりや潤いのある保育・教育の場として、計画的な改修・改築に努め、施設・設備の充実に努めた。
 - *非構造部材の耐震化工事（野市小）
 - *トイレの洋便器化改修工事（野市中）
 - *ブロック塀改修工事（赤岡保育所、夜須保育所）
- ◇新たなニーズに対応する教育施設を計画的に整備することに努めた。
- ◇教育内容や指導方法の多様化に対応した教材・教具の整備充実に努めた。
- ◇教育施設の遊具等について、定期的な点検、補修等を実施し、安全確保に努めた。

【成果】

- ◇非構造部材の耐震化等、計画的な環境整備を実施した。

【課題・方針】

- ◇校舎の老朽化が多く为学校で見られ、大規模な改修が求められている。緊急性も加味しながら計画案を作成し、順次対応していく。
- ◇野市小学校の非構造部材の耐震化については、計画に沿って実施していく。
- ◇児童生徒の安全の確保を優先に考え、危険箇所等の修繕については迅速に対応していく。
- ◇今後も遊具の定期点検などを行い、必要な修繕を実施し安全確保に努める。

(2) 生き生きと学ぶ生涯学習の推進

1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり

重点取組事項

- ①ライフステージに対応した学習の充実
- ②生きがいを得る学習機会の充実
- ③現代課題に対応した学習機会の充実
- ④学習施設の整備
- ⑤地域に密着した学習の場の提供
- ⑥生涯学習推進組織の整備
- ⑦情報提供・相談機能の強化
- ⑧指導者の育成・人材活用
- ⑨生涯学習を通じての地域づくり
- ⑩全ての人と共生する生涯学習の推進

①ライフステージに対応した学習の充実

【取組の概要】

- ◇次世代を担う青少年の育成に資するため、各種事業で指導者育成の視点を持って実施した。
- ◇豊かな心を持ったたくましい子どもを育成するため、体験活動や地域間交流を推進した。また、三世代交流事業として、秋に栗拾い大会や1月には新春凧揚げ大会を開催した。
- ◇青少年健全育成市民会議等の活動の支援を積極的に推進した。
- ◇香南市補導センターや関係機関との連携を密にした、健全育成活動の充実に努めた。

【成果】

- ◇平成27年度から新成人による成人式実行委員会を立ち上げ、本年度も成人式を開催することができた。
- ◇夏休み子どもスクールは3箇所で開催し、28講座開催した。
- ◇各公民館で実施する夏休みの教室は定員オーバーになる状態で実施できた。青少年育成会議の実施する本部事業、各支部事業とも計画どおり実施され、盛況だった。

【課題・方針】

- ◇成人式実行委員会の委員は、従来の市広報での募集に加えて、対象者全員に実行委員募集の案内を送付し、当該年度の実行委員3名と次年度対象の実行委員1名が参加した。積極的な参加であったため、活発な実行委員会となったが人数が少ないことが課題である。

②生きがいを得る学習機会の充実

【取組の概要】

- ◇あらゆる機会を通じて市民の学習ニーズを把握し、多様な学習機会の提供に努めた。いきいきセミナー、高齢者学級、中央生活学級でのアンケート調査実施など。
- ◇学習情報の収集と提供により、いつでも、どこでも、だれでもが学習できる環境の実現に努めた。

【成果】

◇いきいきセミナーは4講座予定どおり実施した。延べ1,100名の方に受講いただき、アンケート等の結果から内容には大変満足していただけた。

【課題・方針】

◇いきいきセミナーのアンケート結果を参考に内容を重視するとともに、より多くの市民が受講したいと思う著名な講師を選考するようにしたい。

③現代課題に対応した学習機会の充実

【取組の概要】

- ◇女性団体や高齢者団体等の社会教育団体との連携を図り、ボランティア活動の推進や男女共同参画社会の実現に向けた取組の強化を図った。
- ◇家庭教育学級や子育て講座などの開設により、家庭の教育力向上を図るとともに社会教育諸団体と連携し、地域教育力の向上に努めた。
- ◇生涯学習社会の実現をめざし、世代に応じた魅力的な講座・教室の開催に努めた。
- ◇高齢者が生きがいを持って生活できる環境を整備するため、世代間交流や潤いとふれあいのある学習機会の提供に努めた。
- ◇人権学習や研修を通して、お互いの人権を尊重する意識の高揚に努めた。
- ◇家庭・地域や各種団体において人権を大切にする教育の啓発活動を充実するとともに、地域交流の促進に努めた。
- ◇同和問題をはじめ障害者や高齢者、外国人、HIV感染者等、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認、災害と人権、犯罪被害者等、その他の人権を守る教育を推進するため、学校や地域指導者と連携して、香南・香美子ども人権学習交流会を開催した。
- ◇こどもの権利について認識を深め、未来を担う子どもを大切にする教育を推進した。
- ◇人権教育推進のために、香南市人権教育研究協議会をはじめ、人権擁護委員会等各種団体との緊密な連携に努めた。

【成果】

- ◇香南市中央公民館の生活学級など各公民館で趣味教養の各種教室が実施できた。
- ◇香南市中央公民館と夜須公民館で実施する高齢者学級は、年度末の「新型コロナウイルス感染拡大防止対策による中止」以外は予定どおり実施できた。
- ◇人権教育研究大会を開催し、保幼小中学校を中心に具体的な人権問題について話し合う機会を設けることができた。
- ◇いきいきセミナー、人権フェスティバル、部落差別をなくする運動など、他課との連携による人権講演を実施し、多くの市民に学習の機会を提供することができた。

【課題・方針】

- ◇乳児期、幼児期に対しての趣味教養教室が実施できていないので検討していきたい。
- ◇香南市人権教育研究協議会と学校や人権擁護委員会等各種団体との人権教育や啓発事業に係る連携や調整がスムーズに実施できていないので関係者との検討会が必要である。

④学習施設の整備

【取組の概要】

- ◇図書購入費を総額630万円とし、野市図書館350万円、香我美図書館230万円、夜

須図書室50万円を配分し購入した。

【成果】

- ◇図書館の入館者数は、感染症拡大による臨時休館等により昨年より減少するも、実利用者数については前年比102.9%と増大した。
- ◇各施設は、適切な維持管理を行うことにより長寿命化を目指して管理されている。

【課題・方針】

- ◇施設を安心して利用できるよう老朽箇所等の整備、本棚の固定などを行う。
- ◇老若男女問わず利用していただけるよう静寂読書室の確保を検討していく。

⑤地域に密着した学習の場の提供

【取組の概要】

- ◇公民館活動の活性化を図るため、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努め、市が進めるまちづくり自治会、まちづくり協議会の事業に協力し、住民に周知するチラシ、たよりを発行した。
- ◇NPO法人みかんネット香南などとの連携により、情報通信技術の学習活動を推進した。

【成果】

- ◇香我美市民館と山南まちづくり協議会との共同事業として防災訓練を山南防災コミュニティセンターで行った。防災訓練を実施したことによって地域の問題や課題箇所が明確となり、改善に向けて取組むことができた。また、地区公民館長と共に子どもから高齢者までが集うことができる教室やサークルの立上げについて支援をしてきた。

【課題・方針】

- ◇継続事業として、公民館活動の活性化を図るため、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努め、各種団体等への周知を行う。

⑥生涯学習推進組織の整備

【取組の概要】

- ◇社会教育関係団体の申請をさせることにより活動の把握及び支援の方法を検討する。
- ◇公民館活動とまちづくり自治会・協議会の活動をリンクさせ、生涯学習推進組織の強化を図る。

【成果】

- ◇市が進めるまちづくり自治会・協議会が徐々に設立され、活動の幅が広がって生涯学習の推進が図られた。

【課題・方針】

- ◇各公民館とまちづくり自治会・協議会の活動をリンクさせるための検討会を全地域で開催する必要がある。

⑦情報提供・相談機能の強化

【取組の概要】

◇市広報、市ホームページ、市民館たより、まちづくり協議会たよりなどを通じて事業・教室の周知を行った。

【成果】

◇図書館が新刊情報を市ホームページで発信することができた。

【課題・方針】

◇あらゆる情報機器を使用し、住民に対し情報発信を行い、最新情報に定期的に更新していく。

⑧指導者の育成・人材活用

【取組の概要】

◇子どもの安全を守るため、地域住民による子ども見守りボランティアの育成に努めた。また、講習会も開催した。

◇子どもの読書活動を推進するため、読書ボランティア養成講座や子ども司書養成講座を開催し、また地域指導者の活動を支援した。

◇高齢者や地域の人材を活用した、知恵と経験に学ぶ世代間交流を積極的に推進した。

◇子どもの体験活動を推進するボランティア団体への支援を行った。

【成果】

◇人材バンクは、広報や各種団体等への呼びかけを行い、登録者の増加が図られた。

◇子ども司書養成講座は予定どおり実施でき、想定していた参加者も確保できた。

【課題・方針】

◇人材バンクについてホームページを更新し制度について改めて周知をする。
また、登録者と利用者とのマッチングをスムーズにできる方法を検討する。

⑨生涯学習を通じての地域づくり

【取組の概要】

◇香南市内の小学生を募集し、こどもよさこい連合会として「よさこい祭り」「みなこい港祭り」等へ参加した。よさこい祭りに2日間参加することにより、追手筋で花メダルをもらう踊り子や2日間参加の優勝旗をもらうこともできた。人材バンクの登録者にも多くお手伝いいただき、無事に2日間踊りきることができた。

【成果】

◇よさこい祭りへの参加を通じ、他校の児童と協力しあうことや、練習を幾度も重ねて本番で踊りを披露する達成感を子どもたちに感じさせることができた。人材バンクも積極的に活用できた。

【課題・方針】

◇香南市の小学生を対象にしているが練習会場の関係から野市町内の小学生が主体となっており、市内全域からの参加に結びつけられていない。

⑩全ての人と共生する生涯学習の推進

【取組の概要】

◇生涯学習施設のバリアフリー化に努め、野市図書館1階の洋便器化改修を行った。

【成果】

◇市民の声を拾いながら対応したことで高齢者等の利用や安全性につながられた。

【課題・方針】

◇今後も市民の声を活かして適切に対応していく。

2) 文化の継承と振興

重点取組事項

①芸術・文化活動の推進

②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承

①芸術・文化活動の推進

【取組の概要】

◇文化関係団体との連携を図り、文化祭や美術展の開催、文化サークルによる発表会や展示会の実施を積極的に進め、芸術や文化の振興を図った。

◇子ども達に文芸に親しんでもらうため、俳句や詩の作り方教室の開催や岡本彌太文学賞の作品募集をするとともに、土佐一絃琴教室を開催するなど郷土文化の継承と情操教育の推進を図った。

◇地域の文化活動を推進し、文化意識の高揚を図った。

【成果】

◇各地区で実施する文化祭・芸能大会の開催のほか、香美・香南市合同の芸能大会を開催できた。

◇岡本彌太文学賞への作品応募が市内小中学校に定着してきており、児童生徒の表現力の育成や詩・俳句の作成能力の向上につながっている。

【課題・方針】

◇芸能大会の来場者増加、どうすれば地域の方が文化活動に興味を持つか検討する。

②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承

【取組の概要】

◇関係機関と連携して埋蔵文化財の発掘と保護に努めた。

◇香南市文化財センター等において、復元された出土品等を公開するとともに、遺跡の調査や公表を通じて文化財の保護意識の醸成を図った。

◇子ども文化財教室や小学校での出前授業を開催するなど、文化・歴史に触れられる機会を持った。

◇重要文化財安岡家住宅保存修理事業や県指定旧赤岡町の土佐芝居絵屏風修復事業などを円滑に進め、天然記念物の保存活動や無形民俗文化財の伝承・保存活動を支援した。

【成果】

- ◇図書館や支所に本年度発行した埋蔵文化財調査報告書と報告書に関連する出土遺物や調査風景の写真などを展示し、埋蔵文化財発掘調査について知ってもらうことができた。
- ◇文化財の保存修理や保存活動を積極的に行うことができた。

【課題・方針】

- ◇文化財・埋蔵文化財について、その存在をさらに知ってもらい、理解を深め、関心を持ち、保護意識を高めてもらえるような方法（活動）を検討していく。

3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

重点取組事項

- ①生涯スポーツ・競技スポーツの推進
- ②スポーツ環境の充実
- ③スポーツ指導員の養成・人材活用

①生涯スポーツ・競技スポーツの推進

【取組の概要】

- ◇NPO法人こうなんスポーツクラブ・NPO法人YASU海の駅クラブ等と連携し、ライフステージに合わせたスポーツ活動を推進するとともに、各種スポーツの普及やスポーツ教室を開催した。
- ◇スポーツ少年団やスポーツ協会等の活動を支援し、競技力向上を図った。
- ◇ウォーキングの楽しさを広め健康増進の意識を高めるべく、ツーデーウォークを開催した。

【成果】

- ◇新型コロナウイルス感染症の影響により一部の教室や大会を中止したことに伴い、開催回数は昨年度に比べて減少したが、NPO法人と連携して概ね計画どおりに教室や大会を開催し、生涯スポーツの振興に寄与した。

*こうなんスポーツクラブ 教室：29事業（延べ478回） 大会：7大会

*YASU海の駅クラブ 5事業（市長杯ヨット大会、シーカヤック競技会、シースポーツ体験、香南ジュニアヨットクラブの育成）

- ◇スポーツ少年団とスポーツ協会の活動に関し、補助金や施設使用料の減免などの経済的支援を継続して実施することにより、団体数の維持が図られた。

令和元年度（平成30年度）

*スポーツ少年団 26団体（26団体）

*スポーツ協会 691人（631人）

- ◇スポーツ協会主催の各地区運動会は、子どもから高齢者まで幅広い年代からの参加があり、世代間交流にも成果がみられた。

【課題・方針】

- ◇一層の健康増進を図るため、既存競技だけでなく小学生から高齢者まで楽しめるニュースポーツを企画立案し、継続して行えるようスポーツクラブと連携していく必要がある。

◇少子高齢化等で運動会など参加者集めに苦慮しており、またその運営に関しても後継者不足がみられる。

②スポーツ環境の充実

【取組の概要】

- ◇スポーツに関する情報の提供や、体育施設や学校施設の有効的な活用を図り、より身近にスポーツを感じる機会の充実に努めた。
- ◇スポーツ施設の改修を行う等スポーツ環境の整備を行った。
(香我美トレーニングセンター床修繕、香我美オレンジテニス場照明修繕、パークゴルフ場芝張替修繕など)
- ◇指定管理制度を活用して、可能な限り一体的な施設管理を図るため、パークゴルフ場の管理を指定管理委託とした。

【成果】

- ◇修繕工事に伴う利用制限により十分な練習環境を提供できない期間もあったが、県民スポーツフェスティバルなどで上位の成績が残せた。
- ◇スポーツ施設の管理について、新たにふれあい広場パークゴルフ場を指定管理としたことで、6施設（野市総合体育館、パークゴルフ場、香我美トレーニングセンター、香我美町民広場、香我美オレンジテニス場、マリンスポーツ施設）の施設管理をより効率的に行えることとなった。

【課題・方針】

- ◇毎年度、突発的な修繕工事が必要となっているため、施設の定期的な点検を実施し、計画的に改修や設備の交換を行う必要がある。

③スポーツ指導員の養成・人材活用

【取組の概要】

- ◇地域スポーツクラブの育成を図り、各種スポーツ指導者の養成と人材の確保に努めた。
- ◇スポーツ推進員が地域で活躍できる体制づくりを行った。

【成果】

- ◇新たに数人がスポーツ少年団認定指導員資格を取得でき、有資格者が確保できた。
- ◇スポーツ推進員が地域の運動会や駅伝大会に積極的に関わることで運営の向上につながった。

【課題・方針】

- ◇スポーツ指導員の高齢化が進行しており、今後は若い世代の人材確保が急務である。

4. 成果指標の点検・評価結果一覧表

基本目標／施策名／成果指標		担当課	評価
1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
(1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進			
①保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育の推進			
1	交流活動を組織として位置付ける（よくできた、できたと回答した割合）	学校教育課	—
2	交流活動の際、育てたい力の共通理解（よくできた、できたと回答した割合）	学校教育課	A
(2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）			
①厳しい環境にある子どもたちへの支援			
3	香南市チャレンジ塾の開設数	学校教育課	B
4	子育て親育ち講演会への参加者数	こども課	B
②学校の組織マネジメント力の強化			
5	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	B
6	学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）	学校教育課	B
③不登校の改善			
7	不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	B
④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築			
8	こうなんファミリーサポートセンター会員数	こども課	B
9	市の子育て情報サイトへのアクセス数	こども課	A
10	地域学校協働本部設置数	学校教育課	A
11	コミュニティ・スクール設置数	学校教育課	A
⑤家庭の教育力の向上			
12	【再掲No. 7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	B
13	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）	こども課	B
14	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）	学校教育課	A
15	【再掲No. 4】 子育て親育ち講演会への参加者数	こども課	B
⑥放課後の子ども生活・学習支援の充実			
16	放課後児童クラブの利用者数	こども課	A
17	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の指導員等研修会実施回数	こども課	A
(3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進			
①就学前教育の充実			
18	市職員研修及び園内研修の実施回数	こども課	A
19	子育て支援センター利用者数（児童のみ）	こども課	B

②確かな学力の育成			
20	【再掲No. 6】 学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）	学校教育課	B
21	ICT機器を活用した校内授業研修を実施したか。	学校教育課	A
22	言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	B
③豊かな心の育成			
23	自分にはよいところがあると思うか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	B
24	将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	B
④キャリア教育の推進			
25	【再掲No. 24】 将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	B
26	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦しているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	—
⑤人権教育の推進			
27	人権教育について計画的に実施することができた学校数	学校教育課	A
28	いじめが解消した割合（いじめが解消した件数/いじめの認知件数）	学校教育課	B
⑥健やかな体の育成と健康の増進			
29	【再掲No. 13】 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）	学校教育課	B
30	【再掲No. 14】 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）	学校教育課	A
31	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数	学校教育課	A
32	肥満傾向率（小学校5年生）	学校教育課	B
⑦特別支援教育の推進			
33	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（保育所・幼稚園）	学校教育課	A
34	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（小学校・中学校）	学校教育課	B
35	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引き継ぎの実施校数	こども課 学校教育課	A
(4) きめ細かな教育の推進			
①教職員の専門性・指導力の向上			
36	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【国語】	学校教育課	B
37	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【算数・数学】	学校教育課	A
②保育所・学校運営の充実			
38	【再掲No. 10】 地域学校協働本部設置数	学校教育課	A
39	保育所・学校評議員連絡会（中学校区）の開催数	こども課 学校教育課	B
40	【再掲No. 11】 コミュニティ・スクール設置数	学校教育課	A

③生徒指導の充実			
41	【再掲No. 5】 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	B
42	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」回答した割合）	学校教育課	B
④教育相談・支援体制			
43	【再掲No. 7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	B
(5) 安全な教育環境での教育の推進			
①防災教育等の推進			
44	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できたか。	こども課 学校教育課	A
45	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できたか。	学校教育課	A
②保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備			
46	小・中学校における非構造部材の耐震化	学校教育課	A
47	小・中学校におけるトイレの洋便器化	学校教育課	A
48	通園・通学路の点検を定期的に行ってきたか。	こども課 学校教育課	A
49	学校内の施設等に関する安全点検が定期的に行ってきたか。	学校教育課	A
2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進			
(1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり			
①ライフステージに対応した学習の充実（家庭教育・学校教育・社会教育）			
50	夏休み子ども教室の回数（参加者数）	生涯学習課	A
51	三世代交流事業参加者数（凧揚げ）	生涯学習課	A
②生きがいを得る学習機会の充実			
52	いきいきセミナーの開催回数	生涯学習課	A
53	生涯学習人材バンクの登録者数	生涯学習課	C
③現代的課題に対応した学習機会の充実			
54	各種教室の開催回数	生涯学習課	B
55	各種教室の延べ参加者数	生涯学習課	B
④学習施設の整備			
56	図書館の入館者数	生涯学習課	B
57	図書館の貸出冊数	生涯学習課	B
⑤地域に密着した学習の場の提供			
58	地区公民館等の利用者数	生涯学習課	A
⑥生涯学習推進組織の整備			

⑦情報提供・相談機能の強化			
59	生涯学習課ホームページ更新回数	生涯学習課	A
⑧指導者の育成・人材活用			
60	読書ボランティア等登録者数	生涯学習課	B
61	【再掲No. 53】生涯学習人材バンクの登録者数	生涯学習課	C
⑨生涯学習を通じた地域づくり			
62	【再掲No. 50】夏休み子ども教室の回数（参加者数）	生涯学習課	A
⑩全ての人と共生する生涯学習の推進			
63	社会体育施設の障害者用トイレの整備	生涯学習課	B
(2) 文化の継承と振興			
①芸術・文化活動の推進			
64	公民館自主事業（舞台・演奏公演）の実施回数	生涯学習課	A
65	文化協会支援事業（文化祭・芸能大会等）	生涯学習課	B
66	市美術展覧会の入場者数	生涯学習課	B
②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承			
67	文化財ボランティアガイド登録者数	生涯学習課	C
68	文化財啓発事業の実施回数	生涯学習課	B
69	小・中学校への出前講座の実施回数	生涯学習課	C
(3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興			
①生涯スポーツ・競技スポーツの推進			
70	市長杯等の参加者数	生涯学習課	A
71	スポーツ教室延べ開催数	生涯学習課	A
72	市民ウォーキング大会参加者数	生涯学習課	C
②スポーツ環境の充実			
73	体育施設（学校開放施設含む）の障害者用トイレ設置数	生涯学習課	B
74	ウォーキングコースの設定箇所数	生涯学習課	A
③スポーツ指導者の育成・人材活用			
75	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数	生涯学習課	A

評価	判断基準
A	目標・計画どおりに取組を実施し、充分成果がでている。
B	目標・計画どおりに取組を実施し、ある程度成果がでている。
C	目標・計画どおりに取組を実施したが、あまり成果がでていない。
D	目標・計画どおりに取組を実施できなかった。

5. 成果指標の点検・評価結果

基本目標		1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
		(1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進			
施策名		①保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育の推進			
整理No	1	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	交流活動を組織として位置付ける（よくできた、できたと回答した割合） ※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
31%	52%	—	80%	—	
取組概要	<p>中学校区連携推進の取組として、毎年度当初に保幼小中の管理職に実施計画についてヒアリングを実施し、年度末には報告書により確認している。各中学校区で年間計画に基づいた取組の推進ができており、交流活動についても事前・事後の話し合いにより交流の目的を明確にし、共有することができ始めている。</p> <p>連携担当者会の中でも、中学校区の協議を位置付け、中学校区の課題から、具体的に取組むことを共通認識し、各発達段階に応じた取組を推進することができた。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>教職員を対象とした連携のアンケートを実施しており、「交流活動を組織として位置づける」と回答した数値の数値目標設定していたが、令和元年度からは教職員を対象としたアンケートの一部について見直しを図り、より質的向上に向けた設問に変更し、この項目が削除されたため実績値なしとしている。</p> <p>令和元年度の設問「所属所において、中学校区で育てたい力をつけるために、組織的に取り組んでいますか。」では、91%が取り組んでいるとの回答であった。</p>				
整理No	2	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	交流活動の際、育てたい力の共通理解（よくできた、できたと回答した割合） ※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
51%	56%	91%	80%	113.8%	
取組概要	<p>各中学校区で年間計画に基づいた取組の推進ができた。交流活動についても、事前・事後の話し合いにより交流の目的を明確にし、共有することができ始めている。</p> <p>連携担当者会の中でも、中学校の協議を位置付け、中学校区の課題から、具体的に取組むことを共通認識し、各発達段階に応じた取組を推進することができた。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>目標数値は達成しているが、昨年度の課題であった互惠性を担保しつつ、カリキュラムマネジメントの視点で整理する点においては、教育計画の見直しに合わせて、整理していく必要がある。</p>				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
	(2) 家庭や地域と連携した教育の推進 (チーム学校の取組)			

施策名		①厳しい環境にある子どもたちへの支援			
整理No	3	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	香南市チャレンジ塾の開設数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2教室	2教室	2教室	4教室	50.0%	
取組概要	<p>香南市内の全ての中学校3年生を対象に、10月1日から翌年2月29日まで、毎週火曜日と木曜日の午後7時から9時まで、赤岡市民館とのいちふれあいセンターの2カ所で教室を開き、英語と数学について学習を進め、高校進学を目指した学習を実施した。 赤岡教室：27名 野市教室：28名</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>令和元年度は募集開始時期を早め、中学校からの声掛けを徹底したこともあり、平成30年度と比べて特に赤岡教室の塾生が大幅に増加した。今後も教室数を増やすための参加募集の工夫や支援員の確保が課題となる。</p>				
整理No	4	担当課	こども課	評価	B
成果指標	子育て親育ち講演会への参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
596人	549人	545人	650人以上	83.8%	
取組概要	<p>香南市立の所・園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者に向けた講演会を年間計画に沿って実施している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>保護者の参加数を増やせるよう、就学前の子育て世代にとって関心・ニーズの高い内容の構成と周知についても工夫が必要である。</p>				

施 策 名		②学校の組織マネジメント力の強化			
整理No	5	担当課	学校教育課	評 価	B
成果指標	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校50.0% 中学校75.0%	小学校57.1% 中学校50.0%	小学校70.0% 中学校80.0%	小学校81.6% 中学校62.5%	
取組概要	<p>中学校では、各教科の「タテ」持ちや教科間連携の取組等による「教科会」「チーム会」の位置付けにより、組織的な取組を推進してきた。</p> <p>小学校では、各種学力調査等の分析を組織的に行う風土が整ってきているが、まだまだ学級担任や学年団の動きが中心の学校があり、若干学校間によるばらつきが認められる。</p>				
課 題 （今後の方向性）	<p>「どちらかといえば、している」を含めると小・中学校ともに100%の達成率である。強肯定回答への移行に向け、学校訪問の機会を捉えて、周知していく。</p> <p>全中学校で、「タテ」持ち型、教科間連携型、ミックス型を導入し、チーム学校を推進する。</p> <p>小学校では、メンター制やOJTの仕組みを整え、学級担任や学年団だけの個業とならないような体制の構築を推進する。</p>				
整理No	6	担当課	学校教育課	評 価	B
成果指標	学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校62.5% 中学校50.0%	小学校14.3% 中学校25.0%	小学校70.0% 中学校80.0%	小学校20.4% 中学校31.3%	
取組概要	<p>中学校では、各教科の「タテ」持ちや教科間連携の取組等による「教科会」「チーム会」の位置付けにより、組織的な取組を推進してきた。</p> <p>小学校では、各種学力調査等の分析を組織的に行う風土が整ってきているが、まだまだ学級担任や学年団の動きが中心の学校があり、若干学校間によるばらつきが認められる。</p>				
課 題 （今後の方向性）	<p>「どちらかといえば、している」を含めると小学校では、85.7%、中学校では100%の達成率である。強肯定回答への移行に向け、学校訪問の機会を捉えて、周知していく。</p> <p>全中学校で、「タテ」持ち型、教科間連携型、ミックス型を導入し、チーム学校を推進する。</p> <p>小学校では、メンター制やOJTの仕組みを整え、学級担任や学年団だけの個業とならないような体制の構築を推進する。</p>				

施策名		③不登校の改善			
整理No	7	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校0.62% 中学校5.41%	小学校1.05% 中学校4.86%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校47.6% 中学校72.0%	
取組概要	<p>昨年度より国の指定である「魅力ある学校づくり調査研究事業」を受け、全小中学校で取組を進めてきた。</p> <p>未然防止に向けた研修会を行い、不登校児童・生徒を発生させない学校・学級づくりに向けて取組を実施している。不登校児童生徒に対しては、学校、SC、SSW、教育支援センター、関係機関が互いに連携し合い、改善に向けて継続的に取り組んでいる。</p>				
課題 （今後の方向性）	新規不登校児童生徒の発生を抑え、不登校児童生徒の割合を減少させるよう、継続して取り組んでいく。				

施策名		④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築			
整理No	8	担当課	こども課	評価	B
成果指標	こうなんファミリーサポートセンター会員数				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
30人 （H29.1.18現在）	74人	86人	150人以上	57.3%	
取組概要	ファミリーサポートセンター事業の周知を行い、会員数を増加させ事業の充実を図る。まかせて会員講習会の開催、会員同士の交流会の開催、ファミサポ通信の作成を行う。				
課題 （今後の方向性）	共働き家庭などのニーズは高まっているが、ボランティアであるまかせて会員のなり手が不足しており、会員数は伸び悩んでいる。今後も社会福祉協議会と協働し、まかせて会員の確保に努める。また、利用者の声を受け、令和2年4月より公共施設（にこにこルーム及びにこなん）で利用ができるようにする。				

整理No	9	担当課	こども課	評価	A
成果指標	市の子育て情報サイトへのアクセス数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
—	6,031回	9,063回	6,000回以上	151.1%	
取組概要	<p>妊娠が分かった時から就学期までの、助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先、子育て関連情報を見やすくまとめてインターネット上のサイトに掲載している。また、普及の進んだスマートフォン用サイトへつなぐQRコードを設定し手軽にアクセスできるようにし、サイトの周知を図っている。</p> <p>また、登録された子育て世帯には、メルマガとして「エプロンだより」と「すこやか通信」をメール配信し、各種健診や予防接種、育児学級など子育てに関するタイムリーな情報も提供している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>子育て情報サイト「香南キッズ」の周知をこれまで以上に多くの場面で行うとともに、関連する部署と連携し内容の充実を図る。</p> <p>スマートフォンアプリ「LINE」を活用した市のHPと連動した情報発信ツールの普及と合わせてサイトの周知を図っていく。</p> <p>関連する部署と連携しながらニーズに応じた見やすい情報発信に努める。</p>				
整理No	10	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	地域学校協働本部設置数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4校	7校	11校	11校	100.0%	
取組概要	<p>地域ボランティアが授業支援や放課後学習支援、登下校見守り、周辺環境整備等を実施。令和元年度からすべての学校に設置するよう取組を進める。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>学校運営協議会、地域学校協働本部協議会、学校評議員会など、目的と役割に応じた組織の調整が必要と思われる。今まで学校が実施してきた地域とのつながりを元にしなが、学校・地域ともに持続できる取組を探していく。</p>				

整理No	11	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	コミュニティ・スクール設置数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0校	1校	3校	11校	27.3%	
取組概要	本年度より赤岡小に加え、野市小と赤岡中が実施している。3校以外は令和3年度より実施に向けて準備期間とした。				
課題 (今後の方向性)	3校以外の学校については、コミュニティ・スクール設置に向けて準備していく。 学校評議員の仕組みから学校運営協議会に移行していけるように、規則等の整備を行っていく。				

施策名		⑤家庭の教育力の向上			
整理No	12	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	【再掲No.7】 不登校児童・生徒の割合 (不登校児童・生徒数/総児童・生徒数)				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校0.62% 中学校5.41%	小学校1.05% 中学校4.86%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校47.6% 中学校72.0%	
整理No	13	担当課	こども課	評価	B
成果指標	毎日朝食を食べる児童生徒の割合 (3歳児)				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
95.3%	93.9%	96.5%	98%以上	98.5%	
取組概要	3歳児の保護者を対象に基本的な生活習慣に関する学習会の開催や給食便りなど啓発を行った。また、健康対策課と連携をとり食育事業に取り組んだ。				
課題 (今後の方向性)	ライフスタイルの多様化もあり、料理の機会や経験が少ない親が増えているため、そこに対する意識付けが課題であり、今後も、保育・幼稚園等と連携した食育事業、パパママ教室や乳幼児健診での指導、総合子育て支援センターでの栄養相談を継続していき、その中で朝食について重点的に、生活リズムを含めた更なる啓発を行う。				

整理No	14	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.3% 中学校91.8%	小学校96.6% 中学校92.0%	小学校98.1% 中学校93.4%	小学校96.0%以下 中学校90.0%以下	小学校102.2% 中学校103.8%	
取組概要	給食指導時間における栄養士による食育指導や体育科・保健体育科、家庭科での学習に加え、各種通信や参観日等を活用し、保護者への啓発活動を行ってきた。				
課題 (今後の方向性)	教科場面での指導、保健指導、食育指導等の様々な機会を通して、児童生徒に朝食摂取の意義を伝え、実践に結び付けるようにする。また、各種通信等も活用し、保護者等にも継続的な啓発を行っていく。				
整理No	15	担当課	こども課	評価	B
成果指標	【再掲No.4】 子育て親育ち講演会への参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
596人	549人	545人	650人以上	83.8%	

施策名	⑥放課後の子ども生活・学習支援の充実				
整理No	16	担当課	こども課	評価	A
成果指標	放課後児童クラブの利用者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
336人	370人	390人	385人	101.3%	
取組概要	放課後児童クラブを市内10カ所で開設し、共働き家庭等の児童（1～6年生）を対象として放課後から18時（一部18時30分）まで遊びや生活の場を提供し、子どもたちの健全育成の向上を図る。 ※R2.3月現在の入会児童は、野市小147人、佐古小67人、野市東小64人、赤岡小6人、香我美小31人、夜須小47人				
課題 (今後の方向性)	野市小学校、香我美小学校区では待機児童が発生しており、待機児童の解消を図るため令和2年度に新たな施設整備を行う。 児童クラブの安定した運営のために放課後児童支援員の人員確保が課題である。				

整理No	17	担当課	こども課	評価	A
成果指標	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の指導員等研修会実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6回	5回	11回	6回	183.3%	
取組概要	放課後児童支援員及び補助員の資質向上を図るため、市主催の研修を実施するとともに、県等主催の研修に参加した。				
課題 (今後の方向性)	延べ215人が研修会へ参加した。今後も支援員のさらなる資質向上及びスキルアップを図っていく。				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進
	(3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

施策名	①就学前教育の充実				
整理No	18	担当課	こども課	評価	A
成果指標	市職員研修及び園内研修の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
52回	62回	71回	52回以上	136.5%	
取組概要	様々な経験年数の職員が情報を共有しながら主体的に研修を行った。保・幼職員研修会1回、副所属長研修会2回、中堅保育者研修会1回園内研修会63回、研究主任会3回 ※実施回数に含めていないが、他に特別支援保育・教育研修会を毎年2回実施				
課題 (今後の方向性)	引き続き主体的な研修の実施を行いながら、保育・教育の質の向上につなげていく。				

整理No	19	担当課	こども課	評価	B
成果指標	子育て支援センター利用者数（児童のみ）				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4,811人	4,525人	4,677人	7,000人以上	66.8%	
取組概要	市内5箇所で開催したものを、7月からは総合子育て支援センター「にこなん」として統合・開設し、就学前の児童及びその保護者（主として概ね3歳未満の児童及び保護者）が相互の交流を行う親子の交流広場や子育てについての相談、情報の提供などの子育て支援を実施する。「にこなん」では病後児保育などサービスを拡充している。				
課題 （今後の方向性）	就学前の保護者の子育てに対する不安感や悩みを軽減し、子育てに活かしていただけるよう、妊娠から出産、育児まで、関係機関と連携しながら切れ目のない子育て支援を目指す中で、にこなんを拠点とした相談体制の拡充や病後児保育などサービスを充実させることにより利用者の増加を目指す。				

施策名		②確かな学力の育成			
整理No	20	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	【再掲No.6】 学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校62.5% 中学校50.0%	小学校14.3% 中学校25.0%	小学校70.0% 中学校80.0%	小学校20.4% 中学校31.3%	
整理No	21	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	ICT機器を活用した校内授業研修を実施したか。				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
75.0%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	各学級に大型モニタ、授業者用タブレットの配置により、ICT機器を活用した授業が展開できている。小学校においてはプログラミング教育の導入もあり、使用頻度の向上が見られた。				
課題 （今後の方向性）	GIGAスクール構想に係る1人1台端末の導入など、ICT機器の操作スキルは現代の必須スキルと捉え、容易な活用事例の提供やスキルアップするための時間と場を保障していく必要がある。				

整理No	22	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校37.5% 中学校0.0%	小学校50.0% 中学校75.0%	小学校14.3% 中学校0.0%	小学校100.0% 中学校100.0%	小学校14.3% 中学校 0.0%	
取組概要	小・中学校ともに、校内研修等各種研修において言語活動の充実に向けた取組を推進するよう教職員で確認し、実践につなげているところである。				
課題 （今後の方向性）	弱い肯定群を含めれば、小・中学校共に100%である。学校では若年教員の増加等に伴い、教員間の授業構想力・指導力にばらつきが見られ、「よく行っている」という強肯定ほどの認識が持てないところである。引き続き、各学校の授業スタンダードに基づいた授業実践の際の徹底を図る。				

施策名		③豊かな心の育成			
整理No	23	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	自分にはよいところがあると思うか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校77.7% 中学校61.1%	小学校88.8% 中学校79.8%	小学校88.5% 中学校63.6%	小学校80%以上 中学校70%以上	小学校110.6% 中学校 90.9%	
取組概要	「褒める」「認める」「励ます」の視座に立ち、全ての小・中学校で、受容的で共感的な子ども理解を進めるとともに、子ども相互が認め合えるような取組を行ってきた。				
課題 （今後の方向性）	県指定「未来にかがやく子ども育成型学校連携事業、国指定「魅力ある学校づくり調査研究事業」の成果を踏まえ、全小・中学校にさらに推進できるよう周知・徹底を図る。				

整理No	24	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校88.9% 中学校64.5%	小学校88.4% 中学校74.7%	小学校88.8% 中学校76.8%	小学校95%以上 中学校70%以上	小学校 93.5% 中学校109.7%	
取組概要	キャリア教育の視点も踏まえ、将来の夢や希望を持たせ、進路指導にもつなげることを意図し、校外学習（社会見学、生産者との交流等）や職場体験学習の実施している。				
課題 （今後の方向性）	社会に開かれた教育課程を念頭に、総合的な学習の時間等も活用しながら、地域社会とつながる機会を増やすとともに、これまでの取組を継続させる。				

施策名	④キャリア教育の推進				
整理No	25	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	【再掲No. 24】 将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校88.9% 中学校64.5%	小学校88.4% 中学校74.7%	小学校88.8% 中学校76.8%	小学校95%以上 中学校70%以上	小学校 93.5% 中学校109.7%	
整理No	26	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校78.8% 中学校68.3%	平成30年度調査では、この項目が削除されている。	令和元年度調査では、この項目が削除されている。	小学校85%以上 中学校80%以上	小学校 — 中学校 —	
取組概要	道徳の時間や特別活動等を活用して、心情的側面の高揚を図り、実際の行為の場面につなげるよう教育活動を行っている。				
課題 （今後の方向性）	令和元年度の調査ではこの項目が削除されているため現状値は示せないが、日々の学習場面や体験活動等の前と後には、目標設定する場面や振り返りをする場面を設定し、児童生徒が自己の成長を感じさせるような取組を行ってきている。児童生徒が見通しをもって、困難なことに挑戦できるよう今後も継続的に取り組んでいく。				

施 策 名		⑤人権教育の推進			
整理No	27	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	人権教育について計画的に実施することができた学校数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	<p>学校の人権教育年間指導計画に基づいて、各教科・領域等と関連を図りながら計画的・系統的に人権教育を展開することを通して、知識的側面、価値的・文化的側面・技能的側面をバランスよく育成し、人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を目指して取組を進める。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>各学校では、講師やテーマを変えながら人権教育年間指導計画に合わせた実践を計画的に実施することができた。課題として、業務量の拡大、教員に求められる力量、資質・指導力の拡大化・多様化により、校内での人権教育に関する十分な研修機会や体制を整えがたい状況がある。</p>				
整理No	28	担当課	学校教育課	評 価	B
成果指標	いじめが解消した割合 (いじめが解消した件数/いじめの認知件数)				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校67.3% 中学校90.9%	小学校96.8% 中学校63.9%	小学校93.4% 中学校49.4%	小学校90%以上 中学校92%以上	小学校103.8% 中学校 53.7%	
取組概要	<p>日頃から子どもたちの様子に目を向けるとともに、「問題行動調査」によって実態を把握している。調査することで学校や教育委員会の問題意識を高め、未然防止や早期対応の取組を行っている。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>いじめの解消のためには、早期発見がカギとなる。教員はいじめに対するアンテナを張り、子ども間の変化を敏感にキャッチできるようさらに意識を高めていくことが課題である。</p>				

施 策 名		⑥健やかな体の育成と健康の増進			
整理No	29	担当課	こども課	評 価	B
成果指標	【再掲No. 13】 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
95.3%	93.9%	96.5%	98%以上	98.5%	
整理No	30	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	【再掲No. 14】 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.3% 中学校91.8%	小学校96.6% 中学校92.0%	小学校98.1% 中学校93.4%	小学校96.0%以下 中学校90.0%以下	小学校102.2% 中学校103.8%	
整理No	31	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	全小中学校で、食育改善委員やJAの方に来ていただき、お弁当作りや朝食作りに取り組むことができた。また、地域学校協働本部事業を活用し、地域の方による朝食作りに取り組んだ学校もあった。				
課 題 (今後の方向性)	小5朝食作り・中1お弁当作りは全校で取り組む予定だが、それ以外でも各校で食育に関する取組がされているが学校間で差がある。支援してくれる組織や人材の確保も難しい場合がある。 授業時間の確保が難しい中、ヘルスメイト・JA婦人部などの協力を得ながら、郷土料理教室などの開催を継続していく。				

整理No	32	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	肥満傾向率（小学校5年生）				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
12.5%	11.0%	13.0%	10%以下	76.9%	
取組概要	保護者への啓発活動や健康指導など、各校で工夫した取組が推進できている。朝食の摂取はもちろんのこと、食べる献立内容の大切さなどの意識付けを家庭に発信する所属所が増えている。				
課題 （今後の方向性）	基本的な生活習慣の確立を目指す。また、日常生活の中に体を動かす機会を設けていく。 さらに、体育の授業を運動量の高い授業になるよう見直しを行う。				

施策名		⑦特別支援教育の推進			
整理No	33	担当課	こども課	評価	A
成果指標	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（保育所・幼稚園）				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	支援の必要な園児の個別の指導計画は適切に作成している。				
課題 （今後の方向性）	引き続き支援の必要な園児についてはもれなく個別指導計画を作成していく。				

整理No	34	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（小学校・中学校）				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校60.0% 中学校28.3%	小学校90.8% 中学校55.7%	小学校92.5% 中学校88.6%	小学校100% 中学校100%	小学校92.5% 中学校88.6%	
取組概要	小・中学校においては、特別支援教育アドバイザーの巡回訪問や校内支援会の実施、各種相談事業を通じて、作成支援・指導を行ってきた成果が着実に表れてきており、さらに推進していきたい。				
課題 (今後の方向性)	小中学校における個別の指導計画の作成については、診断を受けていないが、気になる児童生徒についても作成していく必要がある。				
整理No	35	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引き継ぎの実施校数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行い、一貫した教育支援体制を構築するために作成・活用している。				
課題 (今後の方向性)	対象となるすべての子どもに対して支援ファイル及びシートを作成し、引き継ぎが行われている。教育支援計画との関連性を検討し、より効果的なものにしていく必要がある。				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進
	(4) きめ細かな教育の推進

施策名		①教職員の専門性・指導力の向上			
整理No	36	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【国語】 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校85.0% 中学校63.7%	平成30年度調査では、この項目が削除されている。	小学校94.1% 中学校68.1%	小学校85%以上 中学校70%以上	小学校110.7% 中学校 97.3%	
取組概要	県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かして、授業改善に取り組んでいる。新学習指導要領の趣旨を目指して、市教研、校内研修、教科会・チーム会等で協働して取組を進めてきている。				
課題 （今後の方向性）	小学校は、目標数値を達成し、中学校も改善傾向にある。今後も各種事業・研修会等を活かして、教職員の主体性と同僚性を発揮して「チーム学校」として、取り組んでいく必要がある。				
整理No	37	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【算数・数学】 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.1% 中学校60.3%	小学校88.0% 中学校65.0%	小学校89.6% 中学校71.0%	小学校87%以上 中学校70%以上	小学校103.0% 中学校101.4%	
取組概要	県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かして、授業改善に取り組んでいる。新学習指導要領の趣旨を目指して、市教研、校内研修、教科会・チーム会等で協働して取組を進めてきている。				
課題 （今後の方向性）	小中学校とも、目標数値を達成した。今後も各種事業・研修会等を活かして、教職員の主体性と同僚性を発揮して継続的に「チーム学校」として、取り組んでいく必要がある。				

施 策 名		②保育所・学校運営の充実			
整理No	38	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	【再掲No. 10】 地域学校協働本部設置数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4校	7校	11校	11校	100.0%	
整理No	39	担当課	こども課・学校教育課	評 価	B
成果指標	保育所・学校評議員連絡会（中学校区）の開催数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2中学校区	2中学校区	2中学校区	4中学校区	50.0%	
取組概要	<p>各学校での評議員連絡会は定期的に行われており、教育の現状や取組の報告が行われているが、中学校区での開催はできていない。 香我美小学校と香我美中学校は、各代表が協働本部の会に出席して、協議を行った。 夜須小学校と夜須中学校は、合同で評議員会を開催した。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>香南市保育所・学校評議員連絡会として、平成29年度までは中学校区ごとの意見交換の場を設けていたが、学校規模の違いなどから協議が難しいとの意見が出たことから平成30年度から協議の時間を設けていない。 小中学校については、令和3年度から学校運営協議会に移行する予定。</p>				
整理No	40	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	【再掲No. 11】 コミュニティ・スクール設置数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0校	1校	3校	11校	27.3%	

施策名		③生徒指導の充実			
整理No	41	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	【再掲No. 5】 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校50.0% 中学校75.0%	小学校57.1% 中学校50.0%	小学校70.0% 中学校80.0%	小学校81.6% 中学校62.5%	
整理No	42	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」回答した割合）				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校86.4% 中学校72.9%	小学校91.7% 中学校85.9%	小学校91.0% 中学校71.8%	小学校90.0% 中学校80.0%	小学校101.1% 中学校 89.8%	
取組概要	平成30年度より国の指定である「魅力ある学校づくり調査研究事業」を受け、全小中学校で取組を進めてきた。すべての児童生徒にとって、願いや思いが叶えられ、明日も学校に行きたいと思えるよう「心の居場所」「絆づくりの場」となる「魅力ある学校」に向け取り組んでいる				
課題 （今後の方向性）	小学校は目標数値をやや上回り、中学校は8.2pt下回る結果となった。学級によって偏りがあるので、魅力ある学校づくり調査研究事業等を活用し、学年間で連携を図り取組を進めていき、児童生徒が楽しいと感じられる学校づくりに取り組む。				

施策名		④教育相談・支援体制			
整理No	43	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	【再掲No. 7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校0.62% 中学校5.41%	小学校1.05% 中学校4.86%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校47.6% 中学校72.0%	

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
	(5) 安全な教育環境での教育の推進			

施策名		①防災教育等の推進			
整理No	44	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できたか。				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	100.0%	
取組概要	防災教育に対する意識は年々高まっており、避難訓練においても、緊急地震速報を活用したり、授業中、休み時間、登下校中等多様な状況設定の下で、年間3回以上実施している。				
課題 (今後の方向性)	それぞれの園や学校の実態に適した、より実践的な避難訓練、高い当事者意識を持った児童生徒による避難訓練の実施に向け、発展継続させた取組が必要である。				
整理No	45	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できたか。 【学校安全チェックリスト(県調査)】				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	年度当初の教育計画に防災教育の年間計画を位置づけ、学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の授業を実践している。				
課題 (今後の方向性)	県指定事業の成果を普及させるとともに、児童生徒が当事者意識を持つような防災教育、関係機関と連携した総合的防災教育の展開を目指す。				

施策名		②保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備			
整理No	46	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	小・中学校における非構造部材の耐震化				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
50%	90.9%	90.9%	100%	90.9%	
取組概要	計画的に工事を実施し、目標を達成しつつある。 野市小Ⅱ期工事は、令和元年度から令和2年度に繰越				
課題 (今後の方向性)	令和2年度末までの野市小学校非構造部材耐震化工事終了に向け、計画に沿って取り組む。				
整理No	47	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	小・中学校におけるトイレの洋便器化				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
50%	90.9%	100%	100%	100.0%	
取組概要	令和元年度に野市中の洋便器化工事が完了し、全ての小中学校の洋便器化が完了した。				
課題 (今後の方向性)	計画的に工事を実施し、目標を達成した。 適正な管理を行い、修繕等を要した場合は速やかに対応する。				

整理No	48	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	通園・通学路の点検を定期的に行ってきたか。				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	100.0%	
取組概要	<p>小中学校では、年1回通学路の安全点検を実施し、危険箇所については香南市通学路安全対策連絡協議会で合同点検を行い対策を講じた。</p> <p>保育所・幼稚園では現在、保護者の送迎による通園となっており、児童の通園路という概念がなくなったことから、指標から除外する。ただし、保育所・幼稚園の活動の中（お散歩など）で通る道路や、避難経路及び駐車場から施設までの通路等の点検は定期的に行っている。</p>				
課題 (今後の方向性)	危険箇所については、関係機関が連携し迅速に対応するようにする。				
整理No	49	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	学校内の施設等に関する安全点検が定期的に行ってきたか。				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	教職員による毎月1回の定期点検が実施できた。				
課題 (今後の方向性)	今後も月1回の安全点検を継続実施していく。				

基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進			
	(1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり			

施策名		①ライフステージに対応した学習の充実 (家庭教育・学校教育・社会教育)			
整理No	50	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	夏休み子ども教室の回数(参加者数)				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
21講座 (299人)	28講座 (430人)	29講座 (358人)	25講座 (310人)	回数116.0% 参加者数115.5%	
取組概要	学校以外での子どもの学習・体験活動の機会の創出・拡充のため各公民館で主に小中学生対象の夏休み教室を開催している。				
課題 (今後の方向性)	<p>学年・男女に関係なく参加できることを念頭に置いて開催しているが、公民館がない(開催地でない)赤岡・吉川からの参加者が非常に少ない。</p> <p>今後の取組みとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバリウム教室、各種料理教室、陶芸教室など人気のある教室の複数開催をめざす。 ・各学校へのPRを強化し更なる参加を促す。また、市民館等での出張教室の開催について検討する。 				
整理No	51	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	三世代交流事業参加者数(凧揚げ等)				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
1,000人	1,300人	1,300人	1,000人	130.0%	
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆青少年育成事業として三世代交流凧揚げ大会・三世代交流事業等を開催している。 ◆地域密着型の三世代交流により、地域活性化を推進する。 				
課題 (今後の方向性)	現在行っている凧揚げ大会や栗拾いなどは屋外事業で天候によって参加者数の変動が大きい。今後参加者のニーズを把握し雨天対策や屋内活動の検討など行っていく必要がある。				

施策名		②保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備			
整理No	52	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	いきいきセミナーの開催回数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4講座	4講座	4講座	4講座	100.0%	
取組概要	市民の学習意識を高めるため、各種分野からテーマを選定した上で著名人を含めた4回の講演をセミナーとして開催している。 4講座の内訳：人権教育1回、生涯学習3回で開催				
課題 (今後の方向性)	著名人の講演は集客力があるものの、アンケートでは専門的分野の講師の方が評価が高い。今後もそのバランスを考慮したうえで講師を選考し周知していく。				
整理No	53	担当課	生涯学習課	評価	C
成果指標	生涯学習人材バンクの登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0人	22人	28人	200人	14.0%	
取組概要	様々な分野において豊富な経験や資格を持っている市民や団体の情報を「人材バンク」に登録し、市民の生涯学習活動や学校活動における教育活動等を支援するために、指導者やボランティアとして紹介する制度。				
課題 (今後の方向性)	依頼内容等の住民向けの広報活動（ボランティアの内容などを含め広報やHPでの周知）をはじめ、この制度や活動内容の周知を継続して実施していく。				

施 策 名		③現代的課題に対応した学習機会の充実			
整理No	54	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	各種教室の開催回数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
161回	118回	116回	170回	68.2%	
取組概要	子どもから高齢者まで、様々なテーマに基づき教室を開催している。また、地域講師を中心に、人材育成につながる教室も開催している。				
課 題 (今後の方向性)	より多くの方に参加してもらうように、ニーズを把握する必要がある。				
整理No	55	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	各種教室の延べ参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4,530人	3,327人	4,292人	4,700人	91.5%	
取組概要	子どもから高齢者まで、様々なテーマに基づき教室を開催している。また、地域講師を中心に、人材育成につながる教室も開催している。				
課 題 (今後の方向性)	より多くの方に参加してもらうように、ニーズを把握する必要がある。				

施策名		④学習施設の整備			
整理No	56	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	図書館の入館者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
68,825人	72,685人	64,831人	80,200人	80.8%	
取組概要	読書活動のきっかけとしてまず図書館に足を運んでもらえるように各種イベント等を企画実践し、図書館利用者の拡大につなげている。				
課題 (今後の方向性)	10代、20代の利用者が限定的であるため、対象年代層も考慮した上でお勧め読書の提案などとあわせ各種イベントの周知方法や集客方法の改善を図る。他方では、今回の感染症対策等を鑑み、来館者数よりも実利用者数の拡大に注力せざるを得ない状況となっていることも事実である。				
整理No	57	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	図書館の貸出冊数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
116,714冊	116,336冊	109,339冊	130,000冊	84.1%	
取組概要	読書履歴通帳の発行を行い、利用の定着化を図り、貸出冊数の増加につなげる。 手に取りやすく見やすい配架作りに取り組んでいる。				
課題 (今後の方向性)	今後も手に取りやすく見やすい配架作りの取組を進める。 近隣自治体の図書館と同様の開館日数や、10冊貸出を検討する。				

施 策 名		⑤地域に密着した学習の場の提供			
整理No	58	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	地区公民館等の利用者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
40,622人	40,507人	52,739人	42,000人	125.6%	
取組概要	地域の集まりの中心となる地区公民館を維持し、公民館活動を支援していく。				
課 題 (今後の方向性)	地域により高齢化や実践行事で公民館の利用状況は異なるが、今後も各地区の公民館運営協議会やまちづくり協議会と連携していく。				

施 策 名		⑥生涯学習推進組織の整備			
成果指標	成果指標の設定なし				

施 策 名		⑦情報提供・相談機能の強化			
整理No	59	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	生涯学習課ホームページ更新回数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
13回	52回	78回	50回	156.0%	
取組概要	図書新刊情報、各種教室・大会案内やスポーツ大会の結果報告等の更新を実施している。				
課 題 (今後の方向性)	大会開催前後に情報更新しているが、市民により分かりやすい内容で最新情報を常に更新するよう取り組んでいく。				

施 策 名		⑧指導者の育成・人材活用			
整理No	60	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	読書ボランティア等登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
76人	93人	93人	100人	93.0%	
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆本の読み聞かせグループの活動支援をしている。 ◆ボランティア（図書館クラブ）の保育所・幼稚園への読み聞かせ活動を支援している。 ◆活動補助及び読書ボランティア講座を開催し後継者の育成を図る。 				
課 題 (今後の方向性)	<p>市内の読書ボランティアを実施している団体等を登録しているが個人で読書ボランティアを行っている方の把握が困難である。 今後も住民向けの広報活動（ボランティアの内容などを含め広報やHPでの周知）をはじめ、活動内容の周知を継続して実施していく。</p>				
整理No	61	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	【再掲No. 53】 生涯学習人材バンクの登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0人	22人	28人	200人	14.0%	

施 策 名		⑨生涯学習を通じての地域づくり			
整理No	62	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	【再掲No. 50】 夏休み子ども教室の回数（参加者数）				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
21講座 (299人)	28講座 (430人)	29講座 (358人)	25講座 (310人)	回数116.0% 参加者数115.5%	

施策名		⑩全ての人と共生する生涯学習の推進			
整理No	63	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	社会体育施設の障害者用トイレの整備				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
5箇所	6箇所	7箇所	8箇所	75.0%	
取組概要	<p>障害者のスポーツ活動を促進するため、社会体育施設に障害者用トイレを整備する。 令和元年度は、香我美運動広場の洋便器化改修を行った。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>利用状況にもよるが、現状の施設内で障害者用トイレのスペースを確保できない場合は、障害者用トイレにはならないが、和式トイレの洋便器化を図っていく。</p>				

基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進
	(2) 文化の継承と振興

施策名		①芸術・文化活動の推進			
整理No	64	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	公民館自主事業（舞台・演奏公演）の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6事業	6事業	6事業	6事業	100.0%	
取組概要	<p>公民活動として日頃鑑賞できない舞台・演奏公演を企画し、文化意識向上を図る。 《夜須公民館》 ①よしもとお笑いライブin夜須2020（1,219名） ②一青窈コンサート（555名） ③さかなクンのギョギョっとびっくりおさかな教室（602名） 《香南市中央公民館》 ①栗コーダーカルテット&ビューティフルハミングバードファミリーコンサート（177名） ②神保彰ワルマンオーケストラ全国行脚2020（183名） ③子ども向け映画上映会（アンパンマン・ドラえもん：159名）</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>子ども向けの企画も含め、市民のニーズをしっかりと把握し、より関心の高い内容を企画し実施していく。</p>				

整理No	65	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	文化協会支援事業（文化祭・芸能大会等）				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
14事業	13事業	13事業	14事業	92.9%	
取組概要	市民の文化活動を高めるため、文化協会が関わる展示や芸能の文化祭活動、その他大会を支援する。				
課題 （今後の方向性）	大会実行委員会及び文化協会と連携して、会場手配や当日の職員手伝いなどの支援を充実していく。				
整理No	66	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	市美術展覧会の入場者数				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
1,264人	1,169人	1,089人	1,500人	72.6%	
取組概要	写真、書道、絵画、工芸など市内愛好者の作品発表と鑑賞の機会のため、展覧会を開催する。				
課題 （今後の方向性）	<p>出品者の高齢化（平均74歳）に伴い、年々減少傾向でありR1実績は、177人まで落ち込んだ。県内の公募展も全体的に減少し、県女流展も廃止となっている。市展自体の見直しを考える必要がある。</p> <p>今後の取組みとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内外サークルへの働きかけを行う。 ・県内全域の高等学校以上の学校へ出品依頼を行い、周知活動を実施していく。 ・新たに「グラフィック」、「漫画」部門の追加を検討していく。 				

施策名		②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承			
整理No	67	担当課	生涯学習課	評価	C
成果指標	文化財ボランティアガイド登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
42人	10人	10人	50人	20.0%	
取組概要	香南市文化財を広く伝えていくため、ボランティアガイドを養成し、ガイドの登録を増やしていく。 ボランティアガイド養成講座を4回実施した。				
課題 (今後の方向性)	ボランティアガイド登録者数のうち実働している者が高齢化等の理由で少なくなってきたことから、国重要文化財安岡家住宅の一般公開に向けボランティアガイドの再編成を行ったため登録者数が減少した。 安岡家住宅の一般公開を令和2年度から開始するため、今後もボランティアガイド募集を呼びかけ、実働できる人材を養成する。				
整理No	68	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	文化財啓発事業の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
7回	3回	6回	10回	60.0%	
取組概要	文化財の重要性を後世に啓発していくため、遺跡発掘調査説明会、夏休み文化財教室、文化財講座などを実施していく。 遺跡発掘調査説明会、夏休み文化財教室、文化財講座を開催した。				
課題 (今後の方向性)	香南市文化財に関し市民に向けての各種教室や講座を積極的に展開し、体験活動や周知啓発活動の取組を進める。				

整理No	69	担当課	生涯学習課	評価	C
成果指標	小・中学校への出前講座の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2回	2回	1回	5回	20.0%	
取組概要	市内の文化財や戦争遺産などを後世に伝え残していくため、小・中学校への出前講座等を実施する。 佐古小学校：6年生平和学習（出前授業）				
課題 (今後の方向性)	戦争遺産などを解説し平和について考える講座を希望する小中学校へ講師を派遣しているが、講師の確保等の状況により積極的な事業周知が行えない場合がある。				

基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進
	(3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

施策名	①生涯スポーツ・競技スポーツの推進				
整理No	70	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	市長杯等の参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
480人	769人	873人	590人	148.0%	
取組概要	参加者が競い合うことにより技能の一層の向上が期待できると認められる各種スポーツにおいて、参加者数など一定の大会規模を満たす大会に市長杯を付与することで、スポーツへの関心、参加者の増加、技能の向上などを図っている。				
課題 (今後の方向性)	運営者や競技者の高齢化により大会の維持が難しくなっている競技種目もある。また、参加者数は年度により変動があるが、競技人口はいるので周知徹底し参加を促していく必要がある。				

整理No	71	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	スポーツ教室延べ開催数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
179回	541回	462回	180回	256.7%	
取組概要	<p>こうなんスポーツクラブへ委託し、市民ニーズを把握したうえで指導競技の内容や回数など企画立案し、教室活動を実施する。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>今後も市が力を入れるスポーツ、生涯活動に効果的な対象者を見極めるため、こうなんスポーツクラブと連携してニーズを把握し、事業を実施していく。また、スポーツ人口の拡大を図るため、軽スポーツを新たに取り入れる。</p>				
整理No	72	担当課	生涯学習課	評価	C
成果指標	市民ウォーキング大会参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
80人	163人	72人	290人	24.8%	
取組概要	<p>高齢者でも気楽に行えるウォーキングを通し運動習慣を身につけてもらえるように健康ウォーキング大会やツデーウォーク大会を開催する。 ※健康対策課主催の健康ウォーキング大会が新型コロナウイルス感染防止のため大会を中止したため参加者数が減少した。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>健康対策課で各町2つの推奨コースマップが完成したことで、健康ウォーキング大会は毎年場所を変えながら実施していく。ツデーウォークは香南市民の参加が非常に少ないため、今後周知方法や参加料などの見直しを検討していく。</p>				

施 策 名		②スポーツ環境の充実			
整理No	73	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	体育施設（学校開放施設含む）の障害者用トイレ設置数				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
8箇所	10箇所	11箇所	17箇所	64.7%	
取組概要	<p>障害者のスポーツ活動を促進するため、社会体育施設、学校開放施設に障害者用トイレを整備する。 令和元年度は、香我美運動広場の洋便器化改修を行った。</p>				
課 題 （今後の方向性）	<p>利用状況にもよるが、現状の施設内で障害者用トイレのスペースを確保できない場合は、障害者用トイレにはならないが、和式トイレの洋便器化を図っていく。 学校開放施設の整備が進んでいない。各学校と、利用団体と調整を図り整備計画の見直しを図る。</p>				
整理No	74	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	ウォーキングコースの設定箇所数				
平成27年度 （計画作成時）	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6コース	10コース	10コース	10コース	100.0%	
取組概要	<p>高齢者でも気楽に行えるウォーキングを通して運動習慣や健康増進を推進するため、健康対策課で各町ロング・ショートの2コースを設定し、パンフレットを作成して、啓発を行っていく。</p>				
課 題 （今後の方向性）	<p>今後は、健康ウォーキング大会時に健康対策課が作成したコースマップを活用して、啓発を行っていく。</p>				

施 策 名		③スポーツ指導者の育成・人材活用			
整理No	75	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数				
平成27年度 (計画作成時)	平成30年度	令和元年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
64人	79人	81人	75人	108.0%	
取組概要	<p>◆スポーツ少年団の育成指導にあたる「スポーツ少年団認定員」を増やしていくことで、技能の向上を図っていく。</p> <p>◆スポーツ教室及び各種スポーツ大会の開催や各種スポーツクラブの育成支援。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>各団体に2名以上のスポーツ少年団認定員が必要で、その確保とあわせ、団員数が多い団体へは更に手厚く指導できる体制を構築していくため、認定員の資格取得を促す必要がある。</p> <p>今後の取組みとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技種目において認定指導員のばらつきがあり、今後の安定した指導者確保のために、各団体と連携し講習等の案内を周知していく。 ・各団体へ県スポーツ少年団からの認定講習会情報日程を流し講習会への参加を呼びかけ、取得を促す。 				

6. 学識経験者からの意見

(1) 評価の分類構造と方法について

本報告書は、令和元年度の香南市教育委員会の活動実績を客観的に評価したものである。内容は、例年通り教育委員会内の活動と管理執行事務を記述した項目分類として、「1. 教育委員会の活動、2. 教育委員会が管理・執行する事務」と題された部分と、「3. 管理・執行を教育長に委任する事務」の教育制度全般を運営する事項の評価に大別されている。

なお、後者の教育制度管理運営・執行に関する評価についても、従来通り学校教育制度に関わる部分と生涯学習制度に関わる部分の「成果の指標の点検・評価」に分類され、それぞれ結果の一覧表とその詳細記述部分が付加されている。

全体を俯瞰すると、今年度も昨年までとほぼ同様の評価項目が踏襲されてきており、特に昨年度から数値に関する評価仕様が格段に定着され、一般読者にもわかりやすい指標を定着されていることは評価できるが、逆にその年に力点をおいて追求してきた課題や、重点的に克服してきた課題などが分かりにくくなっている。この点では、そろそろ評価方法に改善を加えて、当該年度に重点的に取り組んできた課題を分かりやすく取り出して記述する方法や、新しい評価方法を加えるべきであろう。評価者の推奨する項目追加については後述する。

また、客観的な評価を推進する意味からも、数値による評価と年次経過の段階を見すえて、実行率何%という数値の明示を継続していることは高く評価できる。しかしながら、これらの数値的な評価をする場合には、長期的な視点と短期的な視点を複眼的に比較評価することが特に重要だが、この点では若干教育委員会の評価基準は曖昧な部分を残している。詳細は後述するが、一例を挙げると45ページの「②確かな学力の育成」という項目では、平成30年度と比べて令和元年度の数値(%)がかなり下がっているにもかかわらず、評価はBのままで継続している。経年比較による数値解釈と説明が丁寧になされるべきであり、今後のために評価基準を一層わかりやすくするとともに、文書によって質的な側面の説明を付加する必要があるだろう。

評価・点検の中心となる「管理執行を教育長に委任する事務」の内容については、以上の数値的な評価を追求しながらも、質的な評価が決定的に重要で有り、質と量の評価が十分に内容実態に沿っていることが求められることから、記述や分類の方法に工夫を凝らす方向性については今後も検討し続けるべきであろう。

以上のように、これまで革新的な数値評価の導入や、項目の整理、わかりやすさの追求など、高評価を与えられる部分も多いが、概してこれまでの既述分類方式を踏襲し、新しい項目の付加や、再分類の方式は余りとられておらず、ともすると当該年度に特色のある課題が分かりにくくなっている部分もあることや、経年比較による評価の解釈が曖昧な部分が残されている。

評価の方法の最後に指摘しておかなければならない点がある。それは、経年評価で「C」以下の評価が継続している項目については、例年通りの評価記述となっているものが多いが、3年以上も「C」評価となっている項目については、何故低レベルの評価に留まっているのか、何故目標通りに数値や質的な課題を解決できないのか、明確にした上で次年度以降特別に対応すべきであろう。このような外部評価方式を導入したこと自体の意味を考えても、これらの「C」評価が継続している項目についてはもっと深刻に受け止めて、行政として一層の努力を計らなければならないであろう。

(2) 評価

1) 教育委員会の活動と教育委員会が管理・執行する事務について

これらの項目については、実際の活動記録となっており、従来通り活動の実態を記述一覧している。特段、問題なく、事実関係の羅列と実際の活動記録となっていることは従来の記述方式を踏襲しており、格段に新しい記述や羅列の方式に改める必要は無いと考えられる。しかし、次年度以降はこれらの諸活動についても一定の自己点検・評価の記述は検討していくべきではないであろうか。

委員会の開催回数や、協議内容が時代の求める状況に応じて、どのように評価・点検されるべきかということも含めて、今後は記述や分類の方法を少し改善することが求められよう。

特に、この点では、香南市教育委員会が近年取り組んで来た南海トラフ大地震の対策に関する事項と、それに伴い被害を最小限に抑える政策を考慮しつつ、人口動態を踏まえた学校規模の適正化と再配置に関する事項や委員会活動の一端が「香南市学校等の規模適性科等検討委員会の委嘱・任命について」等の項目で追加され、課題に取り組んでいることが一定理解できる。ただし、評価項目や記述でこれらの事項に関する評価その他が付加されておらず、香南市の将来的な教育像を描く際に明示すべきヴィジョンに関わるだけに、今後は重点項目立てをして評価活動を行うべきであろう。また、次世代を担うIT機器を駆使した教育課題等についても、今後のコロナ禍の中での教育活動の発展を考えた場合、新しい項目立ての候補となる。

2) 管理・執行を教育長に委任する事務

この項目は、学校教育制度の管理・執行に関わる部分と生涯学習制度の管理・執行に関わる部分に大別されている。これらを項目ごとに評価すると、第一部の学校教育制度に関わる部分では、全47項目にわたって詳細な記述と数値の評価・点検、また目標達成度が明示されている。詳細を示すと、それぞれA評価が23項目、B評価が24項目、C評価が0項目となっている。特に、これまで教育委員会が長年取り組んで来た地域における連携、学校諸機関の連携、中でも保幼小中連携教育の推進と、児童生徒のアンケートを通して教育状況を把握する諸活動については高い評価が与えられているが、極めて正当な評価である。ただし、平成30年度とほぼ同じ項目で評価していることから経年評価をみると、A評価からB評価に下がった項目が3項目、逆にB評価からA評価に上がった項目が5項目ある。一見A評価が増加したかに見えるが、項目数が二項目なくなっており、それがA評価であったためにA評価の数は昨年度と変わっていない。また、B評価は二項目減っているが、この理由によって全体の評価はさして変化のないものとなっている。

ただし、前項目でも記述したが、②の確かな学力の育成という項目では数値がかなり前年度より下がっているにもかかわらず、同じ評価となっていることはもっと説明されるべきであろう。

また、生涯学習制度の管理・執行に関わる部分では、それぞれ同様にA評価が11項目、B評価が10項目、C評価が5項目となっている。昨年度と比較すると、それぞれA評価が1項目増え、B評価が1項目増え、C評価が2項目減少している。評価項目はほぼ昨年度のものを踏襲しているので、直接比較が可能である。つまり、全体の傾向として生涯学習制度の管理・執行に関わる業務は改善され、漸次良くなっていると評価されている。しかし、質的評価を見ると、本当にそうであろうか。C評価の項目を詳細に分析すると、継続的に目標が達成されず、一定放置された状態になっている項目は「生涯学習人材バンクの登録者数」、「文化財ボランティアガイドの登録者数」など、今後

の生涯学習を支える人材育成に関わる項目が軒並み低評価である。これは、人口が長期的に減少し、少子化が進み、市の教育を生涯にわたって支えるには教育関係の専門職では心許ない状態であり、市民参加による教育活動の支援が不可欠の状態から判断すると、余りにも低レベルの到達度と言わざるを得ない。この問題を放置しておく、早晩様々な教育活動に支障が出始め、早急の対策が求められる。

市の将来的な教育発展を願う立場から、これまで少し厳しい評価をしてきたが、数値上の評価全体を振り返ってみると、学校教育制度に関わる事項では、おおむね良く達成されており、半分程度の項目が現状維持か少し進展している状況とは言え、C評価に当たる停滞か衰退を表す評価が2年連続で全くないことはかなり高く評価してもよいであろう。つまり、学校教育制度を取り扱う事項に関してはかなり順調に進展してきていると言える。

また、生涯学習制度の項目に関する評価に関しては、C評価が2項目減ったとは言え、その内容を精査すると前述したとおり、今後一層の努力を要する段階であると言える。

次に、詳細記述を含めて、これらの制度運用上の評価を子細に分析してみよう。特に、制度の運用管理面の質的側面をみる。近年、香南市の教育課題で強調されるのは、不登校児童生徒数の削減や、基礎学力の定着、また教職員の働き方改革を含めた学校マネジメント力の一層の向上、生涯学習制度の一層の推進などの問題である。先に見た数値による評価では、全体評価ではA評価とB評価数が拮抗してはいるが、C評価は0であったことから高評価を記述したが、これらの教育課題に絞ってみると、一部のコミュニティスクール推進などの項目を除いて、前年度までと同様にB評価が多く、A評価が少ないことが分かる。また、詳述の質的内容を併せて分析すると、これらの課題項目については一層の努力を必要とする記述が多数見られることも前年と同様である。特に、生涯学習制度の側面では、推進できていない課題も多く、記述覧にもこれらの課題を再び明示している箇所が目立つ。

昨年度の評価と同様の指摘をせざるを得ないが、項目全体を通して、教職員の働き方を刷新し、時間的余裕と課題への対応教職員の配分を見直せるような、新しい評価項目を入れつつ、これらの従来の課題解決との相関を図ることが求められているのではないだろうか。

特に、子どもの教育活動面だけでなく、ICTを教職員間で一層活用し、高いレベルで教育条件を整備できるように評価するための「自己点検・評価」の仕方を検討すべき時期に来ている。

学校教育制度面だけでなく、生涯学習制度面でも、教職員全体の働き方を見直しつつ、自己点検・評価を通して、新しい形態でこれらの活動を推進していけるような評価分類を取り入れつつ、解決の方策を見いだす一助とすることが必要であろう。特に、次年度にはこの点での進展が見られることを期待したい。

(3) 総評

各論で述べてきたことを繰り返すことにもなるが、全体的な委員会活動を評価する際には、その時々的重要な課題があり、また併存してルーティンワークとして維持・発展させていかなければならない課題項目が存在する。

13年以上香南市の教育委員会の活動を支援してきた評者としては、今後の市の教育状況の一層の発展を祈念しつつ、以下の諸項目を重点課題として評価するような項目立てを検討していただきたい。

- ① 香南市がめざしている地域に開かれた、新しい形態の学校教育や、生涯学習制度を推進していくための市民参加による教育活動に関する項目。特に、コミュニティスク

ールの創設と学校運営協議会の活動の発展、また生涯学習機関を支える市民活動や、ボランティア活動の充実発展に関わる項目の創設と詳細な評価を期待する。

- ② 将来の人口減少、少子化傾向が変化することは困難であることから、教育の質を担保すべく、学校の適正規模の推進項目の新設。また、災害や南海トラフ大地震に備えた学校の制度的保障を何年かけて実施し、各年度ではどこまで達成していくのか等の年次計画と項目ごとの評価を作成し、市民の協力の下で新しい評価を行うこと。
- ③ ITを駆使して、困難な学習・教育状況にある弱者を支えるための評価項目。また、教員の働き方改革に資するITの普及、進展や、実質的な時短達成度合いの評価項目などの明示化。
- ④ コロナ禍やその他想定外の状況下にあっても、児童生徒や、一般市民がITを駆使して、学習を進化させるための評価項目。

教育委員会が総体としてこれらの課題をどのように捉え、どのように各年次で取り組んでいるのか、またその評価は年次進行でどのように革新して行っているのかについては、一般市民に分かりやすい形で示される必要がある。特に、多くの市民の参画や協力が物心両面にわたって必要となり、これらがなくては目標にはとうてい到達できないであろう。

全体的な課題と、時々の中核的な課題を市民に分かりやすく明示し、市民自らこれらの課題推進の強力な主体となって教育機関を支えてもらうには、今後の教育委員会の自己点検・評価活動の一層の進展が待たれるところである。

以上

外部評価委員 高知工科大学教授 中村直人